一一　日ソ基本条約締結関係……四一六
1　条約締結……四一六
2　枢密院ニ於ケル審査経過……五〇五
3　内外ノ論調……五四六
一二　北樺太派遣軍ノ撤退……五八六
一三　日ソ外交関係ノ開始……六四五
1　大使交換関係……六四五
2　ソ連邦通商代表部設置問題……六七四
一四　ソ連邦ノ対外関係……七一五
一五　日ソ間ノ利権交渉……七三二
1　石油・石炭利権……七三二
2　森林利権……八三七
一六　日ソ漁業問題……八六三
付録　日本外交文書　大正十四年第一冊　日付索引

事項一　ロカルノ条約関係

一　一月二十八日　在ベルギー国安達大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

仏国ノ安全ニ関スル条約ニツキベルギー首相ノ内話報告ノ件

第七号（極秘）　（一月二十九日接受）

二十七日首相ノ晩餐会ニ臨ミタル際其ノ秘密ノ内話ニ依レハ英国政府ハ夙ニ寿府「プロトコール」ヲ葬リ去ルコトニ内決シ唯表面ノ段取リヲ作リツツアルニ過キサルハ「セシル」卿カ米国ヨリ帰来後英国ニ於テ公私ノ席上盛ニ同「プロトコール」ヲ罵倒シ居ルニ依リテモ知ラルル次第ナルカ「エリオ」ハ寿府総会ノ当初ヨリ英国最終ノ態度ハ必スヤ右ノ通ナラント予測シ居タルコトトテ其ノ後絶ヘス仏国ノ安全ニ関スル条約ノ締結ヲ英国ニ迫リツツアル処頃日英国ハ亜細亜方面ニ於テ一朝事アル際仏国ニ於テ英国ヲ援助スルコトヲ条件トシテ仏国本土ノ安全ヲ保障スルコトヲ約スヘキ旨申出テタルモ仏国ノ有力ナル政治家中右ハ有事ノ際印度支那ヲ英国陸海軍ノ使用ニ供スルコトヲ約スルコトトナリ英米カ日本ト敵対スル際仏国カ居中調停ヲ努メントスル仏国ノ右方針ニ背クトテ反対スル者多キカ故ニ未タ何等纏リタルヲ聞カス従テ白耳義保障ノ問題モ一向ニ進マサル由ナリ

英仏ヘ暗送セリ

二　二月九日　独国ヨリ仏国首相宛覚書

保障条約ニ関スル独国ノ提案（要訳）

付記　条約局第二課作成調書

独逸ノ保障条約提議

（要訳）保障条約独逸提案（一九二五年二月九日付仏国首相宛覚書）

（極秘）

現下保障条約ノ取リ得ル様式ヲ考フルニ先ツ一九二二年「クノー」博士ノ提議ニ類似セル考案ヨリ出発スルヲ得ヘシ、独逸トシテハ例ヘハ莱因河ニ利害関係ヲ有スル諸強国特ニ英、仏、伊及独ニ於テ長期（追ツテ決定ス）ニ亘リ戦争ヲ行ハサル旨ノ厳密ナル義務ヲ相互ニ負担スル一盟約ヲ受諾スヘキコトヲ受託者トシテノ米国政府ニ対シ宣明スル

コトトスルニ異議ナシ、右盟約ニハ近時欧州諸国間ニ締結セラレ居ル如キ広汎ナル仲裁条約ヲ併合セシムルコトヲ得ヘク独逸ハ又法律問題及政治問題ノ平和的解決ヲ目的トスル仲裁条約（前記ト類似ノ）ヲ其他ノ諸国トモ締結スルノ用意ヲ有ス

更ニ進ンテ莱因河畔領土ノ現状ヲ明白ニ保障スル盟約モ亦独逸ノ受諾シ得ル所ナリ、斯ル盟約ノ要趣ハ例ヘハ関係国ニ於テ莱因河畔領土ノ現状不可侵ヲ尊重スヘキコトヲ相互ニ誓約シ更ニ共同並ニ単独ニテ右責務ノ履行ヲ保障シ最後ニ右責務ニ背馳スル行動ハ之ヲ締約国全体並ニ各個ニ累ヲ及ホスモノト見做スコトトスルモ可ナルヘク同様ノ意味ニ於テ右盟約中ニ締約国カ「ヴェルサイユ」条約第四十二条及第四十三条ニ依リテ独逸ノ負担セル「ラインランド」武装解除ノ義務履行ヲ保障スルコトニ定ムルモ不可ナカルヘシ、又独逸ト希望諸国トノ間ニ前述ノ如キ仲裁条約ヲ締結シ之ヲ右盟約ト連結セシムルコトモ可能ナルヘシ

叙上諸例ノ外他ニ種々解決方法アルヘク又右諸例ノ基本思想ハ種々ノ方式ニ組合ハスコトヲ得ヘシ尚国際連盟ノ起草セル平和議定書ノ大綱ニ倣ヒ総テノ国家ヲ含ム万国協約タラシムル様並ニ右万国協約成立ノ暁ニハ保障条約ヲ之ニ吸収若ハ介入セシメ得ル様右盟約ヲ起草スルノ適否ヲ考慮スルモ有益ナルヘシ

（付　記）

条約局第二課作成調書

独逸ノ保障条約提議

「ヴェルサイユ」平和条約（第四二九条）ニ依レハ独逸カ条約ノ各条項ヲ誠実ニ履行シタル場合連合側ハ本年一月十日限リ「ケルン」地方ノ撤兵ヲ実行スヘキ筈ノ処独逸カ諸条約所定ノ軍事条項ヲ履行セサルノ理由ニヨリ之ヲ延期シタル為メ独逸ノ輿論著シク激昂スルニ至ツタ、丁度此時即本年二月二十日独逸政府ハ仏、英、伊三国ニ対シ所謂安全保障条約締結ニ関スル提議ヲナシタノテアル

勿論独逸カ保障条約ノ締結ヲ提議シタノハ此ノ度カ最初テハ無ク、一九二三年五月ニ於テ賠償問題紛糾シ「ルール」地方ハ仏国ノ占領スル所トナリ「ライン」地方分離運動旺盛ナラントスル際、賠償問題解決対案中ニ日、英、米、仏、伊、白ノ六ケ国ニ対シ時ノ「クノー」内閣カ提議シテ居リ又非公式ニハ夙ク一九二二年末之ヲ試ミタ事モアル程可成リ旧イモノテアル

偖テ今回独逸提案ノ内容テアルカ是ハ独逸政府ハ「ライン」問題ニ関係アル仏、英、伊、独四国ノ間ニ盟約ヲ結ヒ之ニ依ツテ保障問題ノ解決ヲ容易ナラシメンカ為メ関係国政府ト協議スルノ用意カアル右盟約ハ相互ニ領土ノ現状維持ヲ確保シ独逸ニ対シ「ライン」河畔ノ築塞及軍事動作ヲ禁止スル「ヴェルサイユ」条約（第四十二条及四十三条）ノ規定ヲ保障スルモノテアルカ之ヲ補足スルニ仲裁手続ニ関スル規定ヲ以テシ之ヲ他ノ諸国特ニ独逸ノ隣接諸国ニ拡張適用シ得ヘキモノトスルト同時ニ延ヒテハ万国条約タルニ至リ得ル様考案スル事トシタシ

ト云フニ在ツテ「クノー」内閣ノ提案カ単ニ仏独間ニ盟約ヲ結ヒ且裁判ニ付シ得ヘキ性質ノ係争事件ノミヲ仲裁裁判ニ付スヘシト言ヘルニ比較スレハ其ノ範囲頗ル広汎ナモノトナツタノテアル

若シ独逸ノ提案カ其ノ儘採用サルル事トナルト独逸ハ「アルザス・ロレーヌ」ノ奪回カ不可能トハナルカ其ノ直接目的タル「ケルン」撤兵ノ要求ヲ満足スル事カ出来、仲裁裁判等ノ手段ヲ以テ独波国境改定及独墺合併等ヲモ実現スルノ可能性カ有リ頗ル有利ノ地位ニ立ツノテアル、英国ハ之ヲ以テ平和議定書破棄ノ代案ニ利用シ得ヘク又其ノ欲セサル英仏軍事同盟ニ引込マレ行動ノ自由ヲ束縛セラルルノ虞カ無クナルト言フ利益ヲ得ルノテアルカ、伊太利及「チェック」ハ独墺合併等ニ依リ脅威ヲ受ケ波蘭ハ其国境ヲ狭メラルルノ惧カアリ、仏国ハ莱因河畔ニ於テ把握スル実勢力ヲ失ヒ為メニ独逸右傾分子ノ抑制ニ不便ヲ感シ、其ノ同盟国タル「波」「チ」両国ノ不利益ヲ忍ハサルヘカラサルノミカ独波戦争等ノ場合波蘭ヲ赴援シ得サルニ至ル等頗ル不利ナル立場ニ陥ルノテアル

茲ニ於テ叙上ノ利害関係ハ各国政府ノ態度ニ反影シ就中英国政府ハ独逸提議ヲ以テ平和保障ニ貢献スル事大ナリトナシテ之ヲ支援スルノ意向ヲ有シ、仏国ハ正面ヨリ之ニ反対スヘキ理由無キニ依リ「ヴェルサイユ」条約ノ尊重ト独逸カ斯ノ如キ条約ノ当事者タルニハ先第一ニ無条件ニテ国際連盟ニ加入シ其ノ平和的意思ヲ明証セサルヘカラストノ二点ヲ主張シ無条件ニハ賛意ヲ表示シナイ、従ツテ本問題ノ進捗ハ一ニ英仏意見ノ融合ニ懸ル事ト成ルノテアル

此ノ故ニ独逸ノ提案ニ対シテハ英国政府ハ単ニ慎重審議ス

ヘキヲ回答スルニ止メ仏国政府亦本問題ハ仏国ノミナラス連合国間共通ノ問題ナルヲ以テ追ツテ連合国ト協議ノ上回答ヲナスヘシト通告シ置キ（我国ヘハ仏国政府ヨリ通報カアツタ）直チニ英仏間ノ意見交換カ開始セラレ三月七日ニハ「ゼネバ」ニ於ケル連盟理事会ニ出席ノ為メ出張ノ途次「チェンバレン」外相カ「エリオ」首相ト巴里ニ会見シ本件ノ協議ヲ行ツタカ仏国ノ主張タル独逸カ連盟ニ無条件ニ加入スルニ非レハ保障条約ヲ締結シ得ストノ点ニ付一致ヲ見タ丈ケニテ英仏白同盟条約並独逸東方国境保障ニ対スル仏首相ノ要求ニ対シテハ英外相ハ截然其ノ反対ナルヲ明言シタノテアル

越テ十二日寿府連盟理事会ニ於テ特殊協定ノ必要ヲ説キタル英外相ノ声明ハ伊、白、「チェック」等ヨリ主義上ノ賛同ヲ得タルモ仏国側ヨリハ何等ノ支援ヲ得ス又寿府ヨリノ帰途十六日巴里ニ於ケル英外相、仏首相間ノ第二回会見モ第一回会見ノ際意見一致シタル連盟加入ノ件ノ外何等ノ妥協点ヲ見出ス事カ出来スニ終ツテ了ツタ而シテ右会商ノ結果本問題討議ノ為メ「ブラッセルス」巴里、若ハ倫敦ニ関係国会議ヲ開催スヘシトノ企図ハ変更セラレ爾今普通ノ外交手続ニ依リ交渉ハ主トシテ在倫敦仏国大使ト英外相トノ間ニ行ハレタノテアルカ事件ハ何等進展ヲ見タ形跡カ無カツタノテアル

然ルニ三月下旬仏国政府カ関係国ニ対シ本問題ニ関スル仏国ノ立場ヲ開陳シタル書翰ヲ発シテ其ノ意向ヲ求ムルノ措置ニ出テテ以来局面ハ稍有望ニ開展シタ観カアル

右書翰ハ仏国ノ従来ノ態度ヲ記載シタルモノテ予メ連合国間ニ於テ独逸提議ヲ審査シ其中ニ包含セラルル不明ノ点ニ付質疑書ヲ作リ之ニ対スル独逸ノ回答ヲ得タル後ニ非レハ独逸トノ商議ニ入ルヲ得スト冒頭シ仏国カ独逸ニ質サントスル所ハ独逸ニ連盟加入及「ヴェルサイユ」条約遵守ノ意思アリヤノ二点ナルカ仏国ハ尚ホ此ノ外波蘭「チェック」ニ必要ナル保障ヲ与フル事ヲ希望ス、ト云フノカ其ノ要綱テアル

其後英仏ノ交渉ハ右回答案ヲ中心トシテ進展シ其間仏国政変、独逸新大統領選挙等政局ニ重大ナル変化ヲ見、本件ノ交渉捗々シカラサリシカ五月中旬仏国政府ハ英国ノ意向ヲ参酌シ妥協的回答案ヲ関係国ニ送付シ其攻究ヲ促シタノテアル

右案ハ独逸提案ノ根本的審査ニ先タチ左記諸点ニ関スル独逸政府ノ見解ヲ知ルヲ必要ト信ストテ先ツ前顕仏国政府ノ要求（独逸ノ国際連盟加入、「ヴェルサイユ」条約ノ遵守及波蘭及「チェック」ニ必要ナル保障ヲ与フルコト）ヲ著シク温和ナル口調ヲ以テ列挙シ（例ヘハ波蘭方面ノ要求ヲ明言セス単ニ「平和条約ノ改正乃至実際適用上諸条約ノ変更ヲ齎ラスヘカラス」トス）次ニ「ライン」関係国中ニハ当然白耳義ヲ加フヘシトナシタル外全部独逸提案ニ賛同シタルモノテアル

惟フニ独逸提案ハ其動機ニ付テハ論議ノ余地アルヘケレト平和意思ノ表徴タリ且安全保障ニ寄与スル処大ナルヘキハ疑無キ所テアルカラ仏国政府ニシテ右ノ如ク妥協的態度ニ出ツル以上他関係国ニ於テモ多少ノ異論ハアツテモ強ヒテ反対ヲ称フルテアロウトモ思ハレス又右仏国案ナルモノハ相当英国ノ諒解ヲ得居ルモノナルヲ以テ英国政府ノ態度亦之ト著シク背馳スルモノニハ非ルヘク且仏国案ノ文言ハ必スシモ独逸側受諾ヲ至難タラシムルモノトハ認メラレサルヲ以テ保障条約ハ右仏国案ノ指示スル大体ノ方針ニ於テ具体化セラルルノ望少ナカラサルカ如ク感セラルルノテアル

元来一九一九年講和会議ノ際ノ英米仏ノ保障条約、越テ一九二二年「カンヌ」会議当時ノ英仏同盟条約案等カ具体化スルニ至ラサリシハ之等同盟条約カ常ニ独逸ヲ目標トスル対敵関係ヲ基礎トセルモノテアルカ為メ却ツテ対抗国民間ノ猜疑心ヲ誘発セルニ基因セルモノテアル処今回独逸ノ提案ナルモノハ独逸ヲモ含ム締約国全体カ対敵態度ヲ去リ全然対等ノ資格ニ於テ相互ニ安全ノ保障ヲ約セムトスルモノテアツテ此処ニ其ノ特長カ有リ又其ノ実現ノ可能性モ存在スルノテアル

本提案ノ実現サルルニ当ツテ吾人ノ看過シ得ヘカラサルハ本協定ト国際連盟トノ関係テアルカ本協定ハ其当然ノ性質上何等連盟ノ規定精神ト衝突スルモノニ非ラサルカ故ニ連盟ト相併行協力シテ其ノ欠点ヲ補完スヘキ補足的規約トナシ若ハ直接連盟ノ監督ノ下ニ置ク等適当ノ処置ヲ講セラルヘク結局規約第二十一条ノ所謂「リージョナル・アンダスタンディング」トシテ取扱ハルルニ至ルテアロウト思ハルルノテアル

三　二月二十日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

保障問題ニ関スル独国ノ提議及ビ右ニ対スル仏国ノ回答案ニ関スル件

第八四号（極秘）　（二月二十一日接受）

往電第八二号ニ関シ

「セキュリテ」問題ニ付白首相カ安達大使ニ語レル一節和蘭参加云々ハ如何ニモ不思議ニ付夫レトナク本問題ニ付一般的ニ種々質問ヲ試ミタルニ「エリオ」氏ハ本問題ニ付英仏間ニ意見交換アリタルモ之ハ「コロン」撤兵ニ関連シテ起リタルモノ即チ平和条約ヲ楯トシ其ノ規定ニ準拠シテ安全問題ヲ纏メントスルモノニテ中立国ヲ参加セシムル如キハ噂トシテモ初耳ナリ英国カ本問題ニ付 between Allied Governments ノ会議ヲ開カントスル意向ナルモ自分トシテハ今少シク意見交換ノ歩ヲ進メタル後ナラテハ何等決定ニ達シ得スト憂フルカ故持久策ヲ講シツツアリ夫レハ兎ニ角茲ニ新事実突発セリ即チ独逸ハ直接我ニ向ツテ本問題ニ付反対ヲ為セリ之ニ対シ只今閣議ニテ決定セル回答案（彼ハ閣議ノ為メ予約ヨリ約十分遅レテ大統領邸ヨリ帰リ本使ト会見セルナリ）トモ御一読アリ度ク但右ハ未タ何レノ他国政府ニモ知ラセス其回答ハ未発送ニテ局長連モ知ラサル位ナレハ極秘ト御考ヘヲ請フト付言シテ其提案ヲ見セタリ独逸ノ提議ハ三頁ニ亘リ熟読ノ暇ナカリシモ瞥見スル処ニ依レハ平和条約ニ基ク現状ノ下ニ仏独英伊ノ四国政府ハ米国政府ノ前ニ誓ツテ現状ヲ維持シ特ニ（不明）地方ニ於ケル平和安全ヲ計ルヘク領土ニ関スル問題以外ノ問題ハ寿府「プロトコール」類似ノ協定ヲ為スモ可ナリ又斯カル協定ハ独逸ノ関スル限リ右四国以外ニ拡張スルニ異議ナシト云フニ在リ仏国回答案ハ独逸提議ノ要点ヲ掲ケタルノミ仏国政府カ斯カル重要問題ニ付与国ト協議ヲ遂ケタル後ニアラサレハ的確ナル意見ヲ表明スル地位ニアラサルコトハ独逸政府ノ了解セラルル所ナラント結ヘリ

在欧米各大使ニ暗送セリ

四　二月二十四日　在本邦仏国臨時代理大使ヨリ幣原外務大臣宛

保障問題ニ関スル独国ノ提議及ビ右ニ対スル仏国ノ回答通報越シノ件

Tokyo, le 24 Février, 1925.

Ambassade
de la
République Française
au
Japon

N° 17

Monsieur le Baron,

L'Ambassadeur d'Allemagne à Paris a fait savoir à M. Herriot, Président du Conseil, Ministre des Affaires Etrangères, que le Gouvernement Allemand serait prêt à échanger des vues avec le Gouvernement Français pour faciliter le règlement de la question de sécurité par un pacte comprenant les Puissances intéressées à la question du Rhin, la France, l'Angleterre, l'Italie et l'Allemagne.

Ce pacte comporterait à la fois une garantie et une adhésion conjointes au statu quo territorial actuel, la garantie des clauses de démilitarisation des articles 42 et 43 du Traité de Versailles, le tout complété par une procédure d'arbitrage qui pourrait être étendue à d'autres pays, notamment aux voisins de l'Allemagne: cette procédure pourrait être formulée de telle sorte qu'elle préparerait une convention mondiale comprenant tous les états.

M. Herriot a répondu à l'Ambassadeur d'Allemagne que le Gouvernement Français examinerait ces propositions avec intérêt et avec la volonté de ne rien négliger de ce qui peut contribuer à affermir la paix de l'Europe et du monde mais qu'il devait, avant tout, en saisir ses Alliés pour se mettre d'accord avec eux afin de parvenir à l'établissement d'un régime de sécurité dans le cadre du Traité de Versailles.

D'ordre de mon Gouvernement, j'ai l'honneur de communiquer ce qui précède à Votre Excellence./.

Veuillez agréer, Monsieur le Baron, les assurances de ma très haute considération.

F. Gentil

Son Excellence
le Baron Shidehara,

Ministre des Affaires Etrangères,
etc., etc., etc.,
Tokyo.

五　二月二十七日　幣原外務大臣ヨリ在仏国石井大使宛（電報）

独国提議ノ保障問題ニ関スル協議ノ推移報告方訓令ノ件

別　電　同日幣原外務大臣発在仏国石井大使宛電報合第三七号
保障問題ニ関スル独国ノ提議及ビ右ニ対スル仏国ノ回答ニ関スル件

合第三六号（極秘）

二十五日在本邦仏国代理大使来省本国政府ノ訓令ニヨリ大要別電合第三七号ノ趣旨ヲ通報スル公文ヲ手交セリ

右ハ貴電第八四号ニ該当スルモノト認メラルル処保障問題ニ関連シ「ライン」関係諸国間ニ盟約協定ノ件ハ帝国政府ノ関スル限リ「ヴェ」条約ノ精神ニ抵格セサル以上単ニ其成リ行キヲ看守スルニ止メ差閊ナキ考ナルモ仲裁手続ヲ拡張シテ万国条約タラシメントスルノ点ニ付テハ協議ノ発展如何ニヨリ連盟規約其他ニモ関係アルヤニ思考サルルニ付キ本件ノ推移御注視ノ上逐次御報告相成度シ

本電別電ト共ニ英、独、伊、白ニ転電アリ度シ

（別　電）
二月二十七日幣原外務大臣発在仏国石井大使宛電報合第三七号
保障問題ニ関スル独国ノ提議及ビ右ニ対スル仏国ノ回答ニ関スル件

合第三七号（極秘）

独逸国政府ハ「ライン」問題ニ関係アル仏、英、伊、独諸国ノ間ニ一ノ盟約ヲ作成シ之ニ依ツテ保障問題ノ解決ヲ容易ナラシメンカ為メ仏国政府ト協議スルノ用意アリ而シテ該盟約ハ相互ニ領土ノ現状維持ヲ確保シ「ヴェ」条約第四十二条及第四十三条ノ規定ヲ保証スルモノナルカ同時ニ仲裁手続ニ関スル規定ヲ設ケ之ヲ他諸国特ニ独逸ノ隣接諸国ニ拡張適用シ得ルコトトナスト共ニ該手続ニ関スル規定ハ一切ノ国ニ適用サル可キ万国条約タルニ至ル様考案サレ得ルコトト致度キ旨在仏独逸大使ヨリ「エリオ」首相ニ申出アリ右ニ対シ「エリオ」ヨリ仏国政府ハ右提議ヲ慎重考査ス可キモ先ツ以テ連合諸国ト「ヴェ」条約処定ノ保障制度確立ニ関シ協議ヲ遂クルノ要アル旨回答セリ

六　二月二十八日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

対独軍事監督問題ニ関スル仏国政府及ビ英、伊大使等トノ談話ニツキ報告ノ件

第九五号（極秘）　（三月一日接受）

仏政府当局及英伊大使等ト対独軍事監督問題ニ関スル談話ヲ遂ケタル後ノ本使ノ感想ヲ述フレハ仏国政府ハ平和条約ニ安全ニ関スル規定ナキ（英米トノ同盟条約ニ信頼シテ平和条約ヨリ安全事項ヲ除クヲ承諾シタル後同盟条約不成立ニ了ハリタルヲ以テ安全問題ハ遂ニ閑却セラレタル結果トナレリ）ヲ以テ今ハ平和条約ノ保障条項ヲ厳重ニ解釈シ之ニ依リ安全ノ実ヲ得ント欲シ第一期撤兵線タル「コローヌ」撤兵ハ安全問題ニ関スル満足ヲ得サル間ハ飽ク迄反対スルノ態度ニ出テ軍事監督委員ニ於テ報告ノ提出（右報告ノ大要ハ大平発陸軍宛電報ニテ御承知ヲ請フ）及其詮議ニ遅延ヲ来セルハ之カタメナリ而シテ右総報告ニ対シテハ過日ノ「ヴェルサイユ」軍事会議ニ於テ日英白伊ノ委員何レモ仏国委員ト同シク独逸ニ条約不履行アリテ現状ノ儘ニテハ平和ニ不安ヲ与フルト謂フニ一致セルモ政治的見地ニ至テハ英伊ト仏白ノ間ニ大差アリ前者ハ条約不履行ノ重大ナル二、三ノ点ニ就キ独逸ノ反省ヲ求メ他ノ微細ノ点ハ寛恕セントスルニ反シ後者ハ要求申告ヲ主張セントス（其底意ハ前述ノ如ク安全問題ニ満足ヲ得ルニアルヘシ）故ニ近ク開カルヘキ右総報告ニ関スル大使会議ニ於テモ一致ノ決議ヲ看サルヘキハ勿論ニテ英仏トモ一応大使会議ニテ折衝セシメタル上ニ問題ヲ局限シテ之ヲ同盟国会議ニ移スノ外ナシト思惟スルニ至レリ右ハ往電第八四号ノ如ク仏政府ノ考案ナルモ英政府モ今ハ之ニ同意セルカ如シ英大使ハ「チェンバレン」カ理事会ニ出席スヘキカ同盟国会議ハ三月下旬カ四月ニナルヘシト思ハルト謂ヘリ、抑々英国カ何故ニ譲歩セルヤト謂フニ第一ニ同盟条約ノ不成立第二ニ寿府議定書ニ反対セサルヲ得サル羽目ニアルカ故ニ仏国ノ泣言ヲ無視シ得サル行懸ニアルト他方今回ノ総報告ニ依リ独逸ノ用意案外重大ナル事実ヲ突キ付ケラレ独逸ハ勿論英国迄カ幾分恐怖ヲ持ツニ至レルカ故カト想像セラル

七　三月五日（着）　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

連合国軍事監督委員報告ノ公表ニ関シカーゾ

ン卿答弁ノ件

第一〇五号

三日上院ニテ「オックスフォード」卿ヨリ「コロン」撤兵問題ニ関連シ連合国軍事監督委員報告ノ公表ヲ求メタルニ対シ「カーゾン」卿ハ該報告ハ百六十頁ニ亘リ詳細ナル技術的事実ニ満チ居ルヲ以テ之ヲ其儘公表スルニ適セス且該報告ニハ独逸不履行事実ヲ大小トナク収録シ在ルモ本件撤兵問題ノ如キ重要案件ノ決定ハ直ニ重大ナル事実ニ依リテノミ決定セサルヘカラサルニ鑑ミ該問題ノ決定ニ当リ連合国政府ノ重キヲ置クノ意無キ軽微ノ不履行ノ浩瀚ナル「リスト」ヲ公表スルハ却テ有害ナリト思考ス之英政府カ他連合国ニ対シ本件報告ノ公表ヲ提議セサル所以ナリ但本件撤兵問題ノ如キ重大事項ニ就テハ決定ノ基礎ト成レル理由及事実ヲ肯定セシムル事ナクシテ何等決定スル事無カルヘク他連合国同意ノ下ニ本件撤兵開始ノ為改善ヲ要スルモノトシテ独逸ニ通告スヘキ不履行事実ノ詳細ナル「リスト」ヲ公表スルノ意向ナル旨ヲ答ヘタリ

在欧各大使ヘ郵報セリ

八　三月五日　在仏国石井大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

対独軍事監督総報告ニ対スルヴェルサイユ軍事会議意見書ニ関スル件

第一〇六号　（三月六日接受）

往電第九五号ニ関シ

「ベルサイユ」軍事会議ヨリ三月一日付軍事監督総報告ニ関スル意見書ノ提出アリ右ハ総報告ノ要点ヲ繰返シ要スルニ独逸ハ比較的短期間ニ大戦当初ニ於ケル実力ヲ回復スル計画成レリト説明シ詳細ニ入リテハ何等意見ヲ述フルコトヲ避ケタルカ三日ノ大使会議ニ於テハ英国側ヨリ更ニ㈠監督委員会ノ業務ヲ所謂五項ニ限リ得ルヤ若ハ五項ノ外重要ナル事項ニシテ追加スヘキ項目アリヤ㈡監督委員会引揚ノ為ニハ五項及㈠ノ追加項目ヲ如何ナル程度迄実施スルコトヲ要スルヤ詳細ニ決定スル様「ベルサイユ」軍事会議ニ諮問方提議シ仏国モ之ニ賛シ猶此ノ外「ケルン」撤兵ニ関スル条件ヲモ諮問スヘキコトヲ申出テ結局此趣旨ニ於テ四日各国書記官ヲ会合シテ決議文ヲ起草セシメタリ

右決議文ハ英国提案ヲ更ニ明確ニシタル外「ケルン」撤兵ニ関シ英国側ハ其条件ハ監督委員会撤退ト同一ナルヘシト主張シタルモ仏国側ハ二者ハ別個ノ問題ナリトシテ之ヲ争ヒ結局監督委員会引揚ノ条件以外「ケルン」撤兵ニ関シ決定スルニ当リ各国政府ノ注意ヲ喚起スルニ足ル事項アラハ之ヲ列挙セシムルコトトシ猶陸軍条項実施ニ関シ連合側カ既ニ譲歩シ又将来譲歩シ得ル諸点ヲ挙ケテ報告ニ付加セシムルコトトス

九　三月七日（着）　在英国林大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

英国外相ノ下院ニ於ケルコローニュ撤兵及ビ安全問題等ニ関スル言及ニツキ報告ノ件

第一一〇号

五日下院ニ於ケル外務省報告ノ討議中英外相ハ Cologne 撤兵問題安全問題等ニ言及シ元来条約規定ニ依レハ「ライン」占領期間ハ十五年ナルモ独逸カ条約義務ヲ忠実ニ履行スルニ於テハ五年ノ後ニ於テ「コローン」ヨリ撤兵スルコトトナリ居ル次第ナリトナシ軍事監督委員会報告公表問題ニ関シテハ往電第九四及一〇五号ノ趣旨ヲ繰リ返シ英政府ノ目的ハ最モ早キ時期ニ於テ独逸政府及国民ヲシテ前記占領期間ノ短縮ノ実行ニ必要ナル条約義務ヲ履行セシムルニ存スルヲ述ヘ若シ此際自己ノ動議ニテ本問題ヲ決定スルモノトスルモ全文ノ公表ヲ欲セストナシ安全問題ハ極メテ緊要問題ナルモ「コローン」占領ハ条約ニ基礎ヲ有シ従テ条約ノ明白ナル目的及規定ニ依ラサル限リ継続スルヲ得スト思考スト述ヘ安全問題ニ関シテハ同日朝「グレー」卿カ当地新聞ニ発表シタル安全問題ハ西欧羅巴難問ノ懸案ニシテ同安全問題ノ処理セラレサル限リ何等進歩ナシトノ意見ニ同意ヲ表シ独逸提議ニ言及シ数週前在独英大使ヲ経テ初メテ独逸政府ノ提議ニ接シタルモ其際他連合国ニ対シ秘密ニ付スルコトニハ同意スルヲ得サルコトヲ直ニ明カニシ置キタルカ超ヘテ在英独大使ハ独逸政府ノ意向ハ仏白伊諸政府ヘモ同様ノ申入レヲナスニ（脱？）存スルヲ確保セルコトヲ述ヘ英政府ハ右提議ヲ重要視シ本問題ノ解決ヲ得ルタメ之ニ対シ慎重審議ヲナサンコトヲ欲スル旨ヲ述ヘ今日英国カ欧州ノ利害ヨリ脱却シ去ルコトハ不可能ナリ欧大陸二十哩ノ内ニアリ且欧州ニ発生スル事件ニ全然無関心ナルヲ得ル程英海峡ニ依リ欧州及其不幸ヨリ防護分離セラレサル英国ニ取リ安全問題ノ解決ハ啻ニ全世界ノ一般利益而已

ナラス英国自体ノ利益ナリ英国ハ喜ンテ同問題ノ解決ニ努力スヘシト答ヘ六日出発寿府ニ赴キ途次仏首相ト会見スルコトヲ告ケ今回旅行ノ目的ハ意見交換報道蒐集ニ存シ特別ノ取極ニ就キ交渉ヲ開始シ又ハ或ル計画ヲ説明センカタメニアラスト述フ

一〇　三月七日(着)　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

保障条約問題ニツキ我ガ国ガ連合国会議ニ参加ヲ勧誘サレタル場合ノ考慮方肝要ナル旨申進ノ件

第一一一号（極秘）

往電第一一〇号ニ関シ

当方面新聞紙等ニ現ハルル所並ニ右英外相ノ演説ニ依ルニ英国政府ハ未タ欧州保障問題ニ付確タル具体案ハ之ヲ有セサル如キモ独逸ノ提案ヲ基礎トシテ何トカ纏メタシトノ意向ヲ有スルモノナルコト明ラカナリ外間ニ現ハレタル所ヨリ察スルニ独逸ハ今回ノ提案ニ付先ツ英国ノ意向ヲ「サウンド」シタルモノノ如ク仏ニ対シテハ兎ニ角トシテ少クトモ白伊ニ対シ独カ同様提案スルニ至リタルハ其ノ際ニ於ケル英政府ノ注意ニ基キタルモノニ非スヤト思ハル本件ニ付テハ英外相カ寿府理事会ニ出席スル途次巴里ニテ「エリオ」ト会見スル際意見交換アルハ勿論ナルヘク而シテ寿府議定書ハ屢次ノ往電ノ通今回ノ理事会ニテ事実空文トナルヘシト考ヘラルル関係上其ノ後ニ開カルヘキ往電第九二号(二)ノ連合国会議（風説ニ依レハ武府ニテ開催トアリ右ニハ独逸軍事監督問題ノ関係上帝国代表モ出席スルモノト見テ差支ナカルヘシ）ニテ右保障条約問題カ話題トナラストモ限ラス同条約ニ関スル今日迄ノ経過ニテハ独逸及四欧州連合国丈ケノコトトセラレ又事実欧州平和保障ノ為ナルニ付日本ハ参加セサルモノト当然諒解セラルル上帝国政府ノ御意向モ仏宛貴電合第三六号ノ通ナルカ最後ノ段取リトナリ殊ニ帝国参加ノ連合国会議ニテ議セラルル場合ニ帝国ノ参加ヲ慫慂スルコトナシトハ断言シ得ス右ニ際シ不意打チヲ食ハサル様其ノ場合ノコトヲモ予メ篤ト考慮セラレ置クコト肝要ナルト共ニ帝国トシテハ本件提議ハ仏政府ヨリ間接ニ通報ヲ得タルニ止リ肝心ノ独逸ヨリハ何等提議ニ接シ居ラサルノ事実ハ之ヲ記憶セラレ居ル様致シタシ

仏、伊、独、白ヘ暗送セリ

一一　三月七日　在ベルギー国安達大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

独国提案ノ相互保障問題等ニ関スルベルギー外相ノ談話報告ノ件

第二五号（極秘）　（三月八日接受）

七日外務大臣ニ面会セルニ(一)去ル二十日当地独逸公使ヨリ極秘トシテ一通ノ公文ヲ手交シ西欧関係国ト独逸トノ間ニ各々其ノ版図ニ関シ相互保障ノ約束ヲナシ尚独逸東方境界ニ付テハ独逸ハ決シテ兵力ニ訴フルコトナク連盟規約第十九条又ハ仲裁裁判ニ依リ之ヲ解決スヘク孰レニシテモ此際何等カノ良法ヲ以テ平和確立ノ根本ヲ定メタキ旨申出タルニ付右ハ極メテ重大ノ案件ニシテ慎重ナル考慮ヲ加ヘ目的ノ達成ニ努ムヘキ旨答ヘ置キタルカ去ル二十六日英仏両国政府ヨリ本件ニ関シ当地ニ於テ関係諸国外務大臣会議ヲ開キ度旨申入レタルニ依リ右ハ主義トシテ同意ナルモ四月五日ノ総選挙前ハ当国政界騒カシク冷静ナル討議ヲ行ヒ難カルヘキニ付成ルヘクハ同総選挙ノ結果現内閣ノ地位明確ニナリタル後ニ実行スルコト望マシキ旨答ヘ置ケリ

自分トシテハ右正式ノ会合前充分意見ノ交換ヲ行ヒ何トカシテ成ルヘクハ連盟規約ノ範囲内ニテ本問題ヲ此際解決シタキ処当地ニ総選挙ノ用務アリ今直ニ出発スルヲ得サルニ付十日巴里ニ赴キ「エリオ」ト意見ヲ交換シ十一日寿府ノ理事会ニ出席ノ積リナリ尚過般噂アリタル和蘭モ話合ニ入ルヤノ件ハ同国ニ於テ一向乗気ニナラス立消トナリタルモノノ如シ

(二)労農政府トハ其後何等正式ノ交渉ナキカ当国人ニシテ自己ノ責任ヲ以テ同国官憲ト交渉シ居ルモノ鮮カラス西比利亜鉄道寝台会社ノ如キモ折角尽力スルヤニ聞及ヘリト語リタリ

尚四日伯林ヨリ帰任セル独逸公使ノ内話ニ依レハ大統領ノ死去ニ不拘責任アル独逸朝野ノ政治家ハ孰レモ前段申出ノ方針ニ依リ本件ノ解決ニ努力スヘク決意シ居レリトノコトナリ

英、仏、独、伊及寿府ヘ郵送セリ

一二　三月十二日　在仏国松島臨時代理大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

独国新提議ニ関スル対エリオ会談ニツキ英外相ノ首相宛報告ノ内容通報ノ件

第一二〇号（極秘）　（三月十三日接受）

「エリオ」ト英外相トノ会談ニ関シ英大使館ニテ同外相ノ英首相宛報告ヲ一読セルモノノ内報左ノ通リ

英外相ヨリ先ツ寿府「プロトコール」ハ到底批准シ得サル旨ヲ懇説シ独逸新提議ニ基キ相互協定ヲ審議シタシト述ヘ仏首相ハ寧ロ英白仏ノ三国限リノ協定ヲ希望セルカ英外相ハ右ハ不可能ナリ現ニ労働、自由両党ノミナラス保守党ノ一部ニモ反対アリ仮ニ之ヲ調印スルモ批准困難ニテ政権一度他党ニ帰セハ忽チ水泡ニ帰スヘキヲ以テ賛成シ得スト答フ次ニ仏首相ハ相互保障ナラハ独逸ハ必ス「ライン」左岸占領期間短縮ヲ求ムヘキカ如何ナル仏政府モ之ヲ諾シ得サルヘシト言ヘルニ英外相ハ右ハ平和条約ニ明記アルコト故英国モ反対スヘク独逸モ之ヲ求メサルヘキヲ信スト答フ

東方国境ニ関シ仏首相ハ波蘭ヲ犠牲ニスル能ハスト言ヘルニ英外相ハ「ダンチヒ」ノ地位ハ不自然ニテ独逸ノ要求モ強チ根拠ナシト言ヒ得ス唯西方国境安定セハ欧州一般ノ平和ヲ確保シ得ヘク間接ニハ東欧諸国ノ地位モ改善サルヘシト述フ

猶相互保障商議ニ先立チ独逸ニ無条件連盟加入ヲ勧告スルナリ

二、独逸案カ東部国境ヲ西部国境ト同一ニ取扱カハサルヲ攻撃スルモノアルモ独逸ハ武力ニ依リ国境ヲ変更スル実力モ無ク又意図モナシ只連盟規約第十九条ノ規定ヲ平和的ニ適用スルノ権利ヲ放棄スル能ハス尚外相ハ連盟問題ニ付テモ説明セルカ要スルニ独逸政府ヨリ十二月連盟事務総長書面ト同趣旨ナリ

一四　三月十四日　在ジュネーヴ石井理事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

独国新提議ニ関シイーマンス、チェンバレンノ見解報告ノ件

第五号（極秘）　（三月十五日接受）

対独軍事監督及「コロン」撤兵ニ関スル問題ハ既電ノ如ク一応大使会議ニテ意見ヲ交換セシメ問題ヲ局限シタル上之ヲ最高会議ニ移ス積リニテ独逸提議ハ問題外ト本使ハ「エリオ」ノ話ヨリ諒解シ居タルモ為念「イーマンス」氏ニ問合セタルニ同氏モ最高会議アリトセハ対独軍事問題ニ付テナルヘク独逸提議ハ問題トナラサルヘシト謂ヘリ次テ「チェンバレン」氏カ本使ニ内話セル所ニ依レハ同氏ハ軍事監督委員報告ニ付大使会議ノ後ニ当局者直接ノ会議ヲ開カントスル意向ニテ独逸提議ハ其ノ後ノ出来事タル而已ナラス這ハ未タ会議ヲ開ク程発展シ居ラサル由初メ同氏ハ右会議ヲ倫敦ニ開カント提議セルニ「エリオ」ハ事務多端ニ付往復ニ便ナル「ブラッセル」ニ開キタシトノコト故之ニ同意セリト謂ヘリ本使ハ若シ会議カ独逸提議ニ付テナレハ大使会議ノ一員タル本使ニ関スルカ故ニ伺ヒタル訳ナリト謂ヘルニ対シ同氏ハ問題ハ勿論対独軍事監督及撤兵ノ件ナレトモ伊国ハ比較的関係浅ク日本ハ更ニ離レ居ルニ付当初ハ本問題ニ関係深キ英仏白ヲ主眼トセル次第ナリト語リ伊国カ参加ヲ欲スルヤ否ヤ確乎トハ知ラスト付言セリ

右様ノ次第ナレハ会議ハ何レ白国総選挙後トナルヘキモ本邦カ之ニ参加ヲ要ストセハ今ノ内英仏ニ渡リヲ付ケ置ク方然ルヘシト思ハル監督委員ノ報告ハ詰リ「コロン」撤兵問題決定ノ為ナレハ来ル会議ハ専ラ撤兵問題ニアリト看做シ得ヘク従テ軍隊ヲ出シ居ラサル日本トシテ強ヒテ参加ヲ主張スル利益ナキヤニモ存セラルルト同時ニ平和条約ニ依リ参加シ得ヘキ理由アルハ勿論ニ付御詮議ノ上何分御訓示アリタシ

ニハ英外相モ全然同意ス

終ニ英外相ハ「ケルン」撤兵問題ニ就キ枝葉ノ理由ニテ解決ヲ遅延スルヲ好マス仏国ノ請求穏当ナラハ右撤兵後モ他ノ地点ニ於テ仏国ヲ援助シ得ヘシ又「ライン」左岸軍備廃止ニ就テハ平和条約第四十二条以下ノ規定アレハ独逸カ之ヲ実行セスハ戦争原因ト認メ英国モ黙視セサルヘキヲ以テ心配無用ナラムト述フ

在欧各大使及連盟事務局ヘ暗送セリ

一三　三月十三日　在独国本多大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

独国連邦諸領議会及ビ帝国議会外交委員会ニ於ケルシュトレーゼマン外相ノ演説報告ノ件

第六四号　（三月十四日接受）

連邦諸領議会及帝国議会外交委員会ニ於テ独逸外相ノ為シタル演説中注意スヘキ点左ノ通

一、独逸カ保障問題ニ関シ提議ヲ為スニ至リタルハ仏国ニテハ相変ラス保障問題喧シク何ントカ解決ヲ為スニ非サレハ「ライン」地方ヨリノ撤兵モ望ミ無キノミナラス独逸ニ対抗スル英仏白三国協定成立ノ経験アリタルヲ以テ

尚独逸提議ニ関シ英外相ハ欧州安全ノ見地ヨリシテ独逸ノ参加ハ望マシク仏白英三国協商ノ如キハ右見地ト相容レサルカ故ニ英政府ノ同意シ能ハサルコトハ過日「エリオ」ニ明言シ置キタルモ仏国ハ依然独逸排斥ニ傾キ居リ困ッタモノナリ「ブラッセル」会議ノ暁ニモ英ハ独ヲ招キ懇切ニ彼カ条約不履行ノ点ヲ説明シ其ノ承諾ヲ求メタキ意向ナルモ「エリオ」ハ之ニ反シ会議ノ決定ヲ伯林ニ於テ関係大使ヨリ申渡サシメタシトテ恰モ独逸ヲ罪人扱ヒニセント主張スルカ故ニ前途ニモ難関アリト語レリ

在欧各大使ヘ暗送セリ

一五　三月十九日(着)　在英国林大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

軍事監督委員会報告全文ノ不公表並ニライン　ラント武装解除等ノ問題ニ関スルチェンバレ　ン・エリオ会談ニ関スル新聞報道報告ノ件

第一三九号

十六日巴里ニ於ケル「チェンバレン」「エリオ」ノ会談ニ関スル新聞報綜合

一、軍事監督委員会ノ報告全文ノ公表ハ両者ノ意見一致ヲ看ス（即チ当分之ヲ為ササル結果トナル）右ハ該報告中ノ怠慢事項ノ全部履行ヲ要求スヘキヤ又ハ重大事項ノミノ履行要求ヲ以テ満足スルヤノ点ニ就キ両者ノ意見一致セサルカ為メニシテ「コロン」撤兵連盟加入ノ前提条件等ニ影響ヲ及スコトトナルカ故ナリ即チ該報告ノ全文公表ハ怠慢事項全部履行論ヲ宣伝スルカ如キ結果トナルカ為メナリ

二、「ラインランド」武装解除問題ニ関シテモ亦意見ノ一致ヲ看ス英国側ハ「ヴェルサイユ」条約ハ連合国又ハ連盟ニ於テ「ラインランド」ニ永久的管理ヲ開始スルヲ許サストノ見解ヲ固執シ仏国側ハ右ハ独逸ノ同意アラハ何等差支ヘナキコトニテ右同意ハ英国カ仏国案ニ同意シ撤兵ニ就キ仏国同様強硬ノ態度ヲ示スニ於テハ之ヲ取付クルニ甚タシキ困難ナカルヘク独逸ノ右同意ノ代償トシテハ連合国ニ於テ速ニ独逸領域ヨリ撤兵スヘシ而シテ右同意ハ独逸ヲ包含スル「パクト」中ニ挿入スルモ可ナルヘキモ同時ニ必須ノ前提条件トシテ違反ニ備フルカ為メ英国カ条約第四四条ノ下ニ仏国ト軍事協定ヲ結フニアリトナス

三、独逸提議ノ「パクト」ノ審議ハ独逸カ連盟ノ一員トナリタル後ニ譲ルコトトナレリ（当地新聞紙ハ右ハ「チェンバレン」カ仏国主張ニ譲歩シタルモノトナスト共ニ他方新聞記者ヘノ答弁振リヨリ「エリオ」カ独逸ヲ加ヘタル「パクト」ノ審議ヲ拒マサルニ至レルモノトナス）右ト同時ニ独逸ノ東方国境ノ修正ノ関スル限リ規約第十九条ノ規定ト衝突スル如キ句ノ挿入ヲ看サルヘキコトノ諒解成立セルヤニ伝フルモノアリ

尚第二軍縮会議ニ関シテハ「エリオ」ハ目下ノ所安全問題ノ解決セサル以上米国側ノ招請アルモ軍縮ハ連盟ニ於テ之ヲ議スヘキモノナルコトヲ理由トシテ之ヲ拒絶セントスル意向ナルヤニ目セラルト報セラル

在欧大使ヘ郵送セリ

一六　三月十九日　在仏国石井大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

エリオトチェコ、ポーランド両国外相トノ会談及ビ独国ノ国際連盟加入ニ関スル件

第一二五号（極秘）　（三月二十日接受）

独逸提議ハ研究セラレツツアルモ之カ為会議ヲ開ク迄発展シ居ラサルハ前電ノ通リナルカ其後「チェッコ・スロバキア」及波蘭ノ外務大臣寿府ヨリ当地ニ来リ相次テ「エリオ」ト会見セリ「エ」氏ハ飽迄「ベルサイユ」条約励行ノ主張ヲ枉ケス従テ東欧及中欧ノ国境ヲ犠牲トシテ自国ノ一時ノ安寧ヲ苟且ニスルカ如キコトナキヲ高唱シテ両相ヲ満足セシメタリト伝ヘラレ右ハ両相ノ新聞会見談ニ依ルモ事実ト察セラル又仏国ノ輿論ハ斯ル政策ヲ挙ケテ排斥シ居ルニ徴シ独逸カ其提議ノ変更ヲ諾セサル間ハ実際問題トナラサルヘキヤニ思考セラル一方対独軍事監督ト「コロン」撤兵ノ問題ハ去ル十六日英仏外相第二回ノ会見ニ於テ之カ為特別会議ヲ開カス大使会議ヲシテ決セシムルコトトナレル由新聞ニ伝ヘラレ同僚白耳義大使ハ右ノ事実ナルヲ本使ニ明言セリ

就テハ独逸カ過日連盟理事会ノ回答ニ依リ連盟加入ノ段取ト進ムヤ否ヤカ欧州政局当面ノ問題トシテ注視セラルル処此ノ問題ニ就キ本使ノ問ニ対シ「チェンバーレン」ハ対独問題殊ニ「コロン」撤兵問題ノ発展ニモ由ルコトナルカ独逸ハ竟ニ加入シ来ルヘシト言ヒ「ドラモンド」ハ先般独逸当局ト会見ノ感想ニ依レハ今回理事会ノ回答ハ少クトモ独逸ノ加入ヲ容易ナラシメタレハ追付ケ加入ヲ申込ムヘシト

言ヘリ仏国ハ表面独逸加入ニ異議ナキヲ言明シ居ルモ其加入カ「ザール」ト「ダンチヒ」トニ及ホスヘキ手近ノ結果ニテモ内心之ヲ喜ハサルハ勿論ニテ新聞紙ハ一般ニ独逸提議カ真面目ニ議セラルルハ彼カ連盟加入ノ後ナラサルヘカラスト主張ス

在欧州各大使ニ暗送セリ

一七　三月二十日　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛

安全問題ニ関スル英国政府ノ態度決定ノ経緯ニ関スル件

公第一四九号

大正十四年三月二十日　（四月二十一日接受）

在英

特命全権大使男爵　林　権助（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

安全問題ニ関スル英国政府ノ態度決定ノ経過ニ関スル件

三月十七日ノ当地諸新聞ハ「マタン」紙カ安全問題ニ関スル英国政府ノ態度決定ノ経過ニ関シ確カナル筋ヨリ得タル

報道ナリトシテ㈠「チェンバレン」ハ国防委員会ノ態度カ明白且徹底的ニ寿府議定書ニ反対ナルコトヲ認ムルヤ曩ニ「エリオ」トノ会見ニ於テ若シ議定書ヲ拒絶スル場合ニハ何等代案ヲ提議スヘキ旨ヲ約シタル行懸モアリ仏国ニ対シ同国ノ安全ニ付テノ或ル種ノ満足ヲ与フルコトノ必要ナルヲ認メ該代案トシテ一九一九年ノ Security Pact ヲ以テスルコトトシ二月十八日ノ閣議ニ右ノ見解ヲ説明シ英国カ独逸ノ侵入ニ対シ仏国国境ヲ保障スルコトヲ基礎トスル協約ノ再議ヲ提議シタルニ首相「ボルドウィン」ハ熱心之ニ賛成シ之カ支持ヲ約シタルノミナラス閣僚ノ多数モ之ヲ支持スヘキコトヲ約シタルヲ以テ（「チャーチル」及「アメリー」ハ反対）氏ハ其ノ意見ノ認メラレタルモノト信シタリシニ拘ラス三月四日ノ閣議ニ於テ従来沈黙ヲ守リ本問題ニ興味ヲ有セサルモノトノ感想ヲ与ヘ居タル「カーゾン」卿ハ突然「チェンバレン」ノ意見ニ反対ナル旨ヲ声明シタル外曩ニ支持ヲ約シタル閣僚ノ多数モ其ノ約ヲ取消シ「ボルドウィン」ハ母ノ病床ニ在リテ「チェンバレン」ノ援助ニ来ルコト能ハス「チェンバレン」ノ自尊心ハ痛マシキ打撃ヲ受ケ当時将ニ辞職セムトシタルモ熟慮ノ末寿府会議ノ切迫ニ鑑ミ職ニ留マルヲ以テ義務ト信シ辞職ヲ思ヒ止マリタルモノナルコト㈡又反対派ハ「チェンバレン」カ理事会ニ於ケル英国代表トシテ単ニ議定書ノ論議延期ヲ要求スル趣旨ノ好意的陳述ヲナサムト欲シタルニ同人ヲシテ右ノ声明ニ代フルニ「バルフォア」卿起草ノ報告ニ基キ且無遠慮ニ議定書ヲ非難セル文書ノ朗読ヲ余儀ナクシタルコト㈢従テ「チェンバレン」カ三月六七ノ両日巴里ニ於テ「エリオ」ト会見ノ際何等ノ提議ヲ為スコト能ハス閣議ノ内情ヲ打明ケ右ノ事態ノ下ニ於テ英仏間ノ「パクト」ノ論議ヲ持出スコトノ不可能ナルコトヲ説明シ閣僚ノ命令的委任ニ基キ独逸側提議ニ言及シタルモノナルコト及㈣独逸側提議ニ付テハ客年十二月初在独英国大使カ「ロイド・ヂョウジ」派ノ友人ニハ告ケタルモ英国外務省ニハ告ケスシテ独逸政府ニ対シ「チェンバレン」カ熱心替成セル英仏白「パクト」成立ノ危険ヲ未然ニ妨止スル為ニハ先手ヲ打ツノ要アル旨ヲ勧告シタル結果本年一月三十一日在英独逸大使ハ「チェンバレン」ニ独逸提案ヲ示シタルモノニシテ当時独逸大使ハ之ヲ秘密ニセムコトヲ要求シタリシモ仏国ノ親友タル「チェンバレン」ハ直ニ在英仏国大使ヲ呼ヒテ之ヲ伝ヘ次テ四連合国ニ於ケル独逸大使ノ同時提議トナリタル次第ナリトノ趣旨ヲ骨子トスル通信ヲ掲載セルカ（別紙第一号）同日ノ「デイリ・テレグラフ」外交記者ハ該記事ハ甚シク事実ニ錯誤アリトテ㈠閣議ニ於テ議定書不採用ニ決シタル際「チェンバレン」ハ其ノ代案トシテ英仏白ノ「パクト」ヲ提議シ同時ニ右ハ単ニ第一段ノ政策ニシテ第二段ニ於テハ独逸ヲ之ニ参加セシムヘキモノナルコトヲ説明シタル処他ノ閣員ノ多数ハ此ノ両階段ヲ合一シ始メヨリ独逸ヲ加ヘタル「パクト」トシテ提議スヘキコトヲ主張シタルニ止マルコト㈡「ボルドウィン」カ「チェンバレン」ノ意見ニ賛成ナリシトハ事実ニ非ス「ボルドウィン」ノ態度ハ閣議議長トシテ固ヨリ他ノ閣員以上ニ其ノ説ヲ主張シ得サル地位ニ在リ且故「ボナーロー」ヨリ継承セル連合国独逸間「パクト」ノ思想ヲ以テ議定書ヨリモ一層連盟ノ精神ニ合致シ反対党ノ多数ヨリモ是認セラルヘキ挙国政策タルヘキヲ信シタルヲ以テ首相ノ見解ハ当初ヨリ「チャーチル」ト同様此ノ方向ヲ辿リタルコト㈢「カーゾン」卿及「アメリー」カ三国「パクト」ノ最モ頑強ナル反対者ナルコト並「カーゾン」卿カ「チェンバレン」ノ寿府ニ於テ陳述シタル英国

ノ政策ノ宣言書ノ作成ニ大ニ寄与シタルコトハ隠レナキ事実ナルモ閣議ヲ決定スルニ最モ与リテ力アリタルモノハ「バルフォア」卿カ伊太利及独逸ヲ包含スル広汎且相互的ナル「パクト」ヲ唱道シタルニ在ルコト(四)加之独逸側提議カ正式ニ英国其ノ他ノ連合国ニ提出セラレタルトキ「チェンバレン」ハ之ヲ連合国トノ論議ノ基礎トシテ非常ニ考慮ノ価値アルモノトシテ閣僚ニ推奨スルニ躊躇セサリシノミナラス其ノ後連合国ニ大使トノ会談ニ於テ之ヲ勧奨シタル程ナルヲ以テ在独英国大使カ独逸政府ヲシテ連合国ニ対シ公然提議ヲ為サシムルカ為如何ナル努力ヲ為シタリトモ「チェンバレン」ニ於テ憤ルヘキ理由ヲ有セサルコト及(五)「チェンバレン」ノ辞職説及「チェンバレン」カ「エリオ」ニ英国内閣ノ重大ナル秘密ヲ打明ケタリトノ説ハ架空ニシテ反駁ヲ要セス尤モ嘗テ「チェンバレン」カ「エリオ」ニ純然タル私信ヲ以テ議定書ノ運命ニ関シテハ何等ノ期待ヲ抱カサル様警告シ何等之ニ代フルヘキ「パクト」ヲ考慮スルノ用意アルコトヲ付言シタリトノ説ハ実質上正確ナリト信スヘキ理由アルモ右ハ単ナル私信ニシテ如何ナル意味ニ於テモ英国外務省ノ公文書ニ非サルコトヲ指摘致居候（別紙

第二号）右両記事ヲ比較対照スルトキハ本件「パクト」問題ニ関スル英国内閣ノ態度ニ付何等事実ノ真相ヲ把握シ得ル様被思考候条別紙新聞切抜添付此段報告申進候也

本信写送付先、在仏大使

編註　別紙省略

一八　三月二十四日　在本邦仏国臨時代理大使ヨリ幣原外務大臣宛

独国ノ保障提議ニ対スル仏国政府ノ意向通報越シノ件

Tokyo, le 24 Mars, 1925.

Ambassade
de la
République Française
au
Japon

N° 22

Monsieur le Baron,

Comme suite à ma communication du 24 Février N° 17, j'ai reçu pour instruction de mon Gouvernement de transmettre à Votre Excellence l'information suivante:

M. Herriot a remis le 23 de ce mois au Vicomte Ishii une lettre qui précise la position actuelle du Gouvernement Français et qui peut se résumer ainsi: Le Gouvernement de la République estime qu'aucune négociation ne peut être engagée pour le moment avec l'Allemagne sans un examen préalable entre alliés d'un certain nombre de problèmes que posent les propositions allemandes. Cet examen permettrait d'établir un questionnaire commun sur les points obscurs des propositions allemandes, et les Alliés pourraient, d'après les réponses qui leur seraient faites, arrêter en commun les bases de la négociation. Les précisions que la France désire obtenir de l'Allemagne doivent avoir pour objet de faire apparaître si celle-ci est prête à entrer dans la Société des Nations et si elle n'entend pas porter atteinte aux clauses du Traité de Versailles; la France désirerait en outre que ses Alliés polonais et tchécoslovaques obtiennent pour les clauses du traité qui les concerne spécialement, les garanties nécessaires.

Mon Gouvernement m'a prié de communiquer ce qui précède au Gouvernement Impérial pour lui marquer son souci de poursuivre une politique de collaboration interalliée./.

Veuillez agréer, Monsieur le Baron, les assurances de ma très haute considération.

F. Gentil

Son Excellence
le Baron Shidehara,
Ministre des Affaires Etrangères,
etc., etc., etc.,
Tokyo.

一九　三月二十六日（着）　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

チェンバレン英外相演説中ノ独国提案ニ関ス

ル部分ノ要旨報告ノ件

第一五九号

往電第一五八号中英外相ハ独逸提案ハ単ニ討議ノ基礎トシテ提案セラレタルモノニテ其ノ儘採否ヲ決スル体ノモノニテモ又調印シ得ル協定ノ形式ノモノニモ非ス其ノ要旨ハ

(イ)独逸ノ意向ハ仏国トノ平和的諒解ニ対スル条約上ノ基礎ヲ作ルコトヲ欲シ

(ロ)独逸ハ莱因ニ利害ヲ有スル国ト相互協定ヲ結ヒ comprehensive ナル仲裁条約ヲ考慮スルニ異議ナク

(ハ)独逸ト境ヲ同シクスル国ニ於テ希望ナラハ同様ノ仲裁条約ヲ締結スヘク

(ニ)莱因ニ於ケル領域ノ現状ヲ一般ニ保障スル協約ヲ結ヒ差支ナク更ニ

(ホ)右協約ニ於テ条約第四十二条及第四十三条ノ履行ヲ保障スルモ可ナリ

ト云フニアル旨説明セリ

在欧大使ヘ郵送セリ

二〇　四月七日　幣原外務大臣ヨリ　在本邦仏国臨時代理大使宛

(一)独逸カ本件提案ヲ為シタル動機ハ「コロン」撤兵問題ニ纏綿スル「アトモスフィア」一掃シ以テ撤兵ノ実現ヲ円滑ニセムトスルニ在リ（往電第六四号「ストレーゼマン」説明演説参照）

(二)提案内容ハ最近英国外相ノ議会演説ニ述ヘタル通リナリ即チ「ライン」方面ニ関シ利害関係国間ニ相互的ニ講和条約所定ノ趣意ニテ猶独逸ノ隣接国（波蘭及「チェッコスロバキア」就中主トシテ波蘭ヲ意味ス）ニシテ希望セハ独逸ハ右隣接国トノ間ニ仲裁又ハ conciliation（国際連盟ニ於テ安達大使ノ関係セルコトアル仕組ニテ現ニ独逸ハ最近瑞典芬蘭等ノ間ニ協定セリ）条約ヲ締結スルヲ辞セストノコトヲ付加セリ乍去提案ノ本件ハ前記(一)ノ趣意ニ照シ又「クノ」宰相当時ノ提議以来ノ沿革ニ鑑ミルモ全然「ライン」問題処理ノ案ニシテ前述付加ノ点ハ云ハハ独逸ノ平和的意向ヲ闡明スル為ノ敷衍的補述ニ過キス而シテ独逸提案ハ単ニ「サゼスション」ノ形ト為シ条約案ノ形式ヲ以テセサリシ所以ハ行ナク条約案トシテ提出スル場合ニハ独逸側ニ於テ即座ニ之ヲ撃退スヘキコト略々疑ナキ故懸引上態ト前者ノ方法ニ依リタル次第ナリ

(三)最近仏国大使ノ談ニ仏国ハ右提案ニ対シ若干ノ質疑ヲ発スヘク右質問書ハ連合与国ト協議ノ上調製多分「イースター」休暇後ニハ独逸政府ニ交付ノコトトナルヘシトノコトナルカ右質問ハ前記独逸提案ノ本質以外ノ問題ニ亘ラサルコトヲ希望セサルヲ得ス例ヘハ墺地利問題ノ如キハ本提案トハ全然没交渉ノ件ニシテ又現実ノ問題トシテハ存在シ居ラス独逸ノ連盟加入問題モ亦本提案ニ無関係ノ別問題ナリ

(四)仏国ハ連盟加入問題ヲ今回ノ問題ニ関連セシメントスルモノナルカ連盟加入問題ハ昨年末ノ懸案ニシテ今回ノ独逸提議トハ独立ノ案件トシテ現ニ独逸政府ニ於テ考量中ナリ本件難関ハ連盟規約第十六条ニ在リ独逸トシテハ右条文ノ義務免除ヲ得ルヲ必要トスル処最近理事会ヨリノ通牒ハ此点ニ付稍々独逸ノ有利ニ一歩ヲ進メタル感アリ結局「フォルムラ」ノ問題ニ帰着スヘク何等カ適当ノ「フォルムラ」ヲ見出シ得ヘキ希望ヲ以テ折角研究中ナリ従テ自然多少時日ヲ要スル上ニ茲ニ極秘ノ打明ケ話ナルカ本問題ニ付テハ露国トノ関係モ顧慮セサルヘカラス

独国ノ保障提議ニ関スル仏国政府ノ意向通報ニ対シ謝意表明ノ件

欧二機密第二三号

独逸ノ保障提議ニ対スル仏国政府ノ意向ニ関スル件

以書翰致啓上候陳者客月二十四日付貴翰ヲ以テ同月二十三日「エリオ」首相ヨリ石井大使宛独逸ノ保障提議ニ対スル貴国政府現下ノ地位ヲ明示セル書翰ノ要旨貴国政府ノ訓令ニ基キ御通報相成致敬承候

貴信御開示ニ係ル貴国政府ノ立場ハ帝国政府ノ能ク諒解シ得ル所ニ有之本大臣ハ右御通報ニ対シ厚ク謝意ヲ表シ候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

敬具

二一　四月八日　在独国本多大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

保障問題ニ関スル独国外務次官ノ談話報告ノ件

第七九号（極秘）　（四月九日接受）

四月七日面会ノ際 security 問題ニ関シ外務次官ノ談左ノ通リ

独逸国内ニ於テスラ独逸ノ連盟加入ハ露国トノ親交関係ノ破壊トナルヘシトノ懸念頗ル行ハレ居ル処由来猜疑心深ク労農政府ハ独逸ノ連盟加入ヲ以テ露国ヲ反対目標トスル西欧列国団ニ仲間入ヲ意味ストノ見地ヨリ苦情ヲ唱ヘツツアリ乍併独逸政府ノ私見ニテハ独逸カ穏当且合理的ノ地歩ヲ以テ連盟ニ加入スルコトハ寧ロ露国ノ利益トモナルヘシト思考スルヲ以テ此意味ニテ実ハ露国ト応酬中ナリ

(五)独逸今回ノ提議ハ(a)西方国境ノミナラス(b)平和条約第四十二及三条武装解除ノ体ノ現状維持保障ヲモ含ムモノナルカ最近ノ「ルタン」社説ニ独逸ノ真意ハ(b)ノ地域ハ単ニ武装解除ノ体ニ止メス独仏トモ尊重ヲ要スル中立ノ体トナシ以テ仏国ノ波蘭援助ヲ不可能ナラシメントスルニ在リト云ヘルハ讒誣ノ甚シキモノナリ独逸ハ国内ノ何レノ部分ヲモ中立ノ体トナスノ考毛頭ナシ斯ノ如キハ独逸統一ノ観察ト相容レサルヲ以テナリ

(六)前ニ云ヘルカ如ク独逸今回ノ提議ハ全然「ライン」問題ノ処理ニアリ東方国境ニ関シテハ何等問題トナルヘキ場合ニアラサルハ行懸上明白ナルニ拘ラス波蘭ハ頻ニ曲解宣伝ヲ為シツツアリ甚タ五月蠅シ波蘭国境ノ不合理千万ノモノタル又波蘭自身ノ真正ノ利益ト相容レサルモノタルコトハ世界ノ公論ニ属ス是正ノ時期ハ何時カハ到来スルコトハ独逸ノ信シテ疑ハサル処ナルト同時ニ独逸トシテハ此問題ヲ進ンテ提起スルノ考ヘハ毫モ有シ居ラス況ヤ独逸カ早晩波蘭ニ対スル侵略ヲ企テツツアリトスル波蘭及仏国新聞ノ宣伝ノ如キハ沙汰ノ限リナリ独逸カ提供セントスル conciliation 条約ナルモノハ現ニ戦争ヲ不可能ナラシムル性質ノモノニアラスヤ云々

前項ニ関連シ然リナカラ波蘭カ万一ニモ其連邦ノ行動ヲ強制スヘク何等無鉄砲ノ軽挙ニ出ツルカ如キ憂ハ無之ルヘキヤト尋ネタルニ次官ハ若シ彼ニシテ斯ル盲挙ヲ敢テセンカ夫レコソ我方ニ執リ大ニ有利ナル結果ヲ齎スヘシト答ヘタリ（往電第七五号参照）

在欧州各大使ニ暗送セリ

二二　五月十四日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

仏国外相ヨリ安全保障問題ニ関スル対独回答案送付越シノ件

第一九九号（極秘）　（五月十五日接受）

仏国代表者ヨリ閣下ニ通告セラルヘキ安全保障問題ニ関スル対独回答案十四日付ヲ以テ「ブリアン」ヨリ本使ニ送ラレタリ（説明ハ右代表者ヨリ閣下ニ為ス筈トアルニ付御電報ヲ請フ）右回答案写ハ在英、白、伊大使ヘ郵送、在独大使ヘハ川島総領事ニ托送スヘシ

二三　五月三十日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

安全保障問題ニ関スル仏国ノ対独回答案要領報告ノ件

第二一二号（極秘）　（五月三十一日接受）

貴電第一二五号ニ関シ

仏国ノ対独回答案要領左ノ通

仏国政府ハ同盟諸政府ト共ニ独逸国ノ提案ヲ以テ平和意思ノ表徴ト認メ平和条約ノ範囲内ニ於テ安全ノ保障ヲ得ル為メ該提案ヲ審査セル処之カ根本的審査ニ先チ左記諸点ニ関スル独逸政府ノ見解ヲ知ル事必要ナリト信ス

(一)連盟規約ハ平和維持ニ必要ナル権利義務ヲ明定セルニ付独逸カ連盟ニ加入スルニ非サレハ安全協定ノ実現ヲ期スルヲ得ス

(二)本件協定ハ平和条約ノ改正乃至実際適用上諸条約ノ変更ヲ齎ス可カ

(三)「ライン」関係国間条約締結（不明）国政府ハ締約国間（不明）ノ法規ハ条約所定原則ヲ更ニ肯定スルト同時ニ平和ニ貢献スル所大ナルヲ了解ス

右締約国中ニハ直接関係国トシテ白耳義ヲ加ヘサル可カラス右基礎ニ依ル協約ハ「ライン」占領軍条項及「ライン」協定ニ影響スルコトナキハ云フヲ俟タス

(四)独逸政府ハ提案中「ライン」協約締結国トノ間ニ法律的及政治的紛争ノ平和的決定ヲ保障スヘキ仲裁裁判条約締結ノ意志ヲ有（脱）表明セル処仏国ハ斯カル条約ハ「ライン」協約ニ対スル当然ノ補充ニシテ総テノ紛争ニ適用セラルヘキコト勿論ナリト信ス

(五)独逸政府ハ前項同様ノ仲裁裁判条約締結ヲ欲スル総テノ国トノ間ニ之ヲ締結スル用意アル旨ヲ示セリ連合国政府ハ喜ンテ斯カル保障ヲ受諾シ且ツ独逸及平和条約調印国ニシテ「ライン」協約ニ加入セサル其隣邦間ニ斯カル協定存スルニアラサレハ「ライン」協約ノ目的モ達セラレ

サルヘク欧州平和モ完全ニ保障セラルルコト能ハスト思考ス

(六)仏国政府ハ安全保障ハ本通牒記載ノ諸協定カ不可分ナル一体ヲ形成スルニ非レハ有効ニ確保セラレスト信ス

最後ニ仏国トシテハ本件平和及安全事業ニ米国ノ参加ヲ得ハ幸之ニ過キスト信ス

二四　六月五日(着)　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

安全保障問題ニ関スル駐英仏国大使及ビ英国外相ノ内話報告ノ件

第二六二号(極秘)

五月三十日仏大使ハ本使ニ面会ヲ求メタルモ折悪ク不在ナリシ為吉田参事官ノ来訪ヲ求メ同大使ハ本国政府ノ訓令ヲ受ケタル次第ニハアラサルモ欧州安全保障問題ノ成行ヲ帝国政府ノ承知ニ入レ置キタク貴官ノ来訪ヲ求メタル次第ナルコトヲ冒頭シ仏政府ハ「ベルサイユ」条約ノ規定ヲ変更シ同条約ノ効力ヲ減殺スルコトハ不可ナリトス且波蘭及「チェッコスロバキア」ト特種ノ条約関係ヲ結ビ居ルニ付保障条約ニシテ両国ニ不利ナラハ仏国自身ニ執リ差支ナクトモ締結スルヲ得サル立場ニ在リ英国政府ノ意見ハ「ライン」左岸ニ付テハ利害関係アルニ依リ其ノ安全保障ニ応シ差支ナキモ独逸東方国ニ付テハ其ノ変更ヲ欲スルノ趣旨ニハ決シテアラサルモ英国ハ新ナル保障ニ応スルヲ得スト云ヒ居ル旨内話セル趣本使ハ同大使ニ其ノ好意ヲ謝シ置キタリ又四日早朝外相ハ本使ノ来訪ヲ求メ本問ハ帝国政府ニ直接利害関係ナカルヘキモ一応経過ヲ通報シ置キタキ次第ナルコトヲ述ヘラレ仏提案ヲ通読シタルニ同国カ平和ヲ欲スルノ念ハ間違ナシト認メラレ独逸ト妥協ノ誠意アルヲ喜フ旨ヲ仏国ニ通シタル上独逸西方国境ニ付テハ英政府ニ於テ或ル義務ヲ負フノ必要ヲ認ムルモ東方国境ノ保障ニ付テハ自治領トノ関係モアリ之レカ保障ハ英国トシテハ出来難キコトヲ仏国ニ通告シ連盟規約ノ規定範囲ニ依リ行動スヘシトナシ又当初ノ仏国ノ提議ニハ白耳義トノ境界ニ言及シ居ラサリシモ独逸平和保障条約中ニ之ヲ入ルルコトニ異議ナキコト明カトナレリト述ヘラレタリ只仏ハ「ラインランド」ニ関シ極メテ広汎ナル仲裁制度ヲ持出シタルモ其ノ提案通リニハ同意ヲ困難トスル旨ヲ内話セラレタリ次テ本使ハ調印国ハ英、仏、白、独四国ナリヤト尋ネタルニ外相ハ伊ハ欧州ノ政局ニ関与ノ希望ヲ有スルニ付同国モ調印国トナルヘシト述ヘ本使ヨリ一件書類ノ写ヲ得ラレ間敷ヤト尋ネタルニ外相ハ右ハ尚外部ヘ出スヲ憚ルモ要点ハ何レ決定次第公表セラルヘシト答ヘタリ依テ本使ハ右通報ヲ謝シ帝国政府ニ於テモ其ノ好意ヲ多トスヘキ旨ヲ述ヘ置キタリ

仏ヘ転電シ独、伊、白ヘ暗送セリ

二五　六月六日(着)　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

保障条約及ビ対独軍備制限通牒ニ関スル英国外相ノ内話報告ノ件

第二六三号(極秘)

往電第二六二号ニ関シ

当日英外相ハ

(一)本件保障条約ハ独逸カ連盟加入ヲ条件トスルコト

(二)四日独逸ニ交付セル対独軍備制限ノ通牒ニ関シテハ独逸ニ於テ二ケ月内外ニ列国側ノ要求ヲ満足セシメント欲スル様子ニ見受ケラレ従テ「コロン」ノ撤兵モ其ノ場合ニハ実行シ得ヘシト内話シ尚

(三)「エリオット」ノ離日ハ本年末頃トナルヘシト告ケラレタリ

仏、伊、独、白ヘ暗送セリ

二六　六月六日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

保障問題ノ現状ニツキ仏国法制局長官内話ノ件

第二二五号(極秘)　(六月七日接受)

六日求メニ依リ法制局長官ヲ往訪セルニ彼レハ Briand(理事会ノ為昨日発本使ハ今夜発)ノ命ニ依リ保障問題ノ具体化セル現状ヲ本使ニ内話シタシトテ過日「ベルトロー」氏ノ内話以外ニ渉リ大要左ノ通述ヘタリ

(一)仲裁条約ハ仏独ト白トノ二個ニ分レ英国ハ右二条約ノ保証人(ガラン)トシテ参加スヘキモ別ニ英独仲裁条約ヲ結ハス(二)此外仏独条約ニハ白耳義又白独条約ニハ仏国カ「ガラン」トナリ締約国ノ一方カ事件ヲ仲裁ニ付セサルカ又ハ仲裁裁判ヲ履行セサルトキハ国際連盟ニ訴ウヘク若シ其一方カ暴力ニ出スルトキハ他ノ一方ハ条約ノ「ガラン」タル二国ノ援助ヲ得テ之レニ抗スルコト(三)波蘭「チェッコスロバキア」ヲ加ヘテ一括シタル仲裁裁判条

約ヲ結ハントノ仏国提議ハ英国ニ容レラレサルモ仏国ハ尚右ト別々ノ仲裁条約ヲ同日ニ締結シ彼是関係ヲ付ケシムル外独逸ノ波蘭「チェッコスロバキア」トノ二仲裁条約ニ対シテモ自ラ進テ「ガラン」トナル積リナリ(四)従テ仏国カ兵力ヲ用イ得ルハ(イ)独逸カ平和条約及ヒ保障条約違反ノ場合(ロ)連盟規約第十六条ノ場合及(ハ)独逸カ仏白波「チェッコスロバキア」トノ仲裁条約ヲ守ラサルノミナラス暴力ニ出スル場合トス

以上英仏間ノ交渉ハ重要ナラサル二三点ヲ除キ大体話合付キタル由ナルカ独逸ハ之レヲ如何ニ受クヘキヤトノ本使ノ問ニ対シ予想ニ困難ナルモ実ハ独逸ノ底意ハ「コロン」撤兵ナトヲ目的トシ斯カル真面目ノ条約ヲ結フノ意思ナキ義ト疑ハルル節モアリト答ヘタリ

在欧州各大使ヘ暗送セリ

二七　六月十一日(着)　在英国林大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

安全保障問題ニ関シチレル内話ノ件

第二七六号（極秘）

往電第二七五号往訪ノ際「チレル」ハ「チェンバレン」ヨリノ命ニ依リ伝フル次第ナル旨ヲ述ヘ安全保障問題ニ関シテハ九日英、仏ノ関スル限リ同意ヲ見ルニ至リタルニ付不日仏ヨリ独ニ回答ヲ請フ事トナルヘシ

本件協定ノ眼目トスル処ハ(一)「ライン」河国境ニ関シ英ハ啻ニ仏ニ対シ保障ヲ与フルノミナラス独ニ対シテモ同様保障ヲ与フルモノナル事(二)独東方国境ニ関シテハ例セハ独逸カ暴力ニ依リ波蘭ヲ侵犯スル際救援ノ為仏ノ取ル行動ニ対シテハ英ハ反対セス只暴力ニ依ラサル場合ノ事ハ問題外タル事ノ二点ニ存セルコト

右協定ニ対シテハ独ニ於テモ格別異議ナキ事ト期待シ居レル旨内話セリ

在欧各大使ヘ暗送セリ

二八　六月十六日

独国ノ保障条約提議ニ対スル仏国政府回答ノート

（要訳）

独逸ノ提議ニ対スル仏国政府回答「ノート」（一九二五年六月十六日）

二月二十日付「ノート」(欄外註記)ヲ以テ独逸政府ニ通告セル通リ仏国政府ハ連合国ト共ニ二月九日付独逸提議ニ包含セラレタル諸試案ヲ攻究セリ

仏国政府及連合国ハ右独逸政府ノ措置ヲ以テ連合国側ノ抱懐スルカ如キ平和的意思ノ熱誠ニ出テタルモノト認ム

連合国ハ関係諸国全部ニ対シ「ヴェルサイユ」条約ノ範囲内ニ於テ補充的安全保障ヲ与ヘンコトヲ欲シ右提案カ平和ノ樹立ニ向ヒ如何ナル貢献ヲナスヘキカヲ判断スル為メ慎重審査セリ

然レトモ独逸提議ノ詳細ナル審査ヲナスニ先タチ右提議カ現ニ惹起シ若ハ惹起スルコトアルヘキ諸問題ヲ明ニ摘出シ置クコト望マシク又之等諸問題ニ関スル予備的合意ハ将来交渉ノ必要ナル基礎タルヘキモノト思料スルカ故ニ右諸問題ニ関スル独逸政府ノ意向ヲ承知シ置クコト肝要ナリ即チ

一、独逸ノ覚書ハ唯タ軽ク国際連盟ニ言及スルニ過キス然ルニ連合国ハ連盟国ニシテ連盟規約ニ羈束セラレ一般的平和維持ノ為メ明定セラレタル権利及義務ヲ負フ

独逸提議ハ右ト同様ノ理想ヲ目標トスルモノナルコト疑ナシト雖モ独逸カ連盟規約ニ規定セラレタル義務ヲ負ヒ且権利ヲ享有スルニ非レハ何等ノ協定ニ達スルコト能ハサルヘシ

従ツテ右協定ハ一九二五年三月十三日付連盟理事会ノ書翰ニ開示セラレタル諸条件ノ下ニ独逸カ連盟ニ加入スル場合ニ於テノミ考量スルコトヲ得ルモノトス

二、今見出サントスル安全保障ノ方法ハ平和諸条約ノ如何ナル変更ヲモ招来スルカ如キ性質ノモノタラサルヲ要ス故ニ保障取極ニシテ締結セラルル場合ニハ右ハ前記諸条約ノ改定ヲ包含シ若ハ右条約ノ或条項ノ実施ノタメ規定セラレタル諸条件ヲ其実際ノ適用上変更スルコトアルヘカラス

斯クテ連合国ハ係争問題トナレル（右諸条約中ノ）規定カ仮令連合国ニ直接関係ナキトキト雖モ之カ不履行ニ対シテハ断然反対スルノ権利ヲ抛棄スルコト能ハス

三、二月九日付独逸覚書ハ先ツ莱因河ニ利害関係ヲ有スル諸強国間ニ次ノ如キ主義ニ基ク一盟約ヲ締結スヘキコトヲ考慮ス

1、締結国間ニ戦争ニ訴ヘントスルノ思想ヲ除去スルコト

2、関係国共同並個別ノ保障ヲ伴フ「ラインランド」ノ領

土的現状ヲ厳密ニ尊重スルコト

3、締約国カ独逸ノ負担スル「ラインランド」武装解除ニ関スル義務ノ履行（「ヴェルサイユ」条約第四十二条及第四十三条）ヲ保障スルコト

仏国政府ハ「ヴェルサイユ」条約ニ掲記セラレタル主義ノ確認ト相併ンテ締約国間ニ於テ戦争ニ訴ヘントスルノ思想ヲ除去セント厳約スルハ平和ノ為メ効多カルヘキヲ領知ス（右誓約ニハ何等ノ期限ヲ付スヘキモノニアラス）

右締約国中ニハ明ニ白耳義ヲ包含スルヲ要ス独逸ノ覚書ニハ之ヲ明示セサリシモ白耳義ハ直接利害関係国トシテ右盟約ノ当事国タラサルヘカラス

又叙上ノ趣旨ニ依リ締結セラルヘキ盟約ハ「ラインランド」占領ニ関スル条約ノ規定若ハ右ニ関連シテ「ラインランド」取極中ニ規定セラレタル条件ノ実施ニ累ヲ及ホシ得サルモノナルコト勿論ナルカ右ハ独逸ノ覚書カ此点ニ関シ何等言フ所無キノ一事ヨリモ推論スルコトヲ得

四、次ニ独逸政府ハ仏国並他ノ「ラインランド」盟約当事国トノ間ニ法律的並政治的紛争ノ平和的解決ヲ保障スル仲裁裁判条約ヲ締結スルノ用意アルヲ宣言セリ

仏国ハ独逸提案ノ如キ種類ノ仲裁裁判条約ハ「ラインランド」盟約ノ当然ノ補足タルモノト思料ス然レトモ仏国ト独逸トノ間ニ於テハ斯ノ如キ条約ハ総テノ紛争ニ適用スヘク当事国間ニ現ニ効力ヲ有スル諸条約若ハ「ラインランド」盟約ノ規定ニ準拠シ又ハ当事国ノ双方若ハ其ノ一方カ仲裁裁判条約ニ与ヘタル保障ノ為メ強制手段ヲ執ル場合ノ外強制手段ニ訴フヘキ余地ヲ存スヘカラサルモノナルコトヲ了解スルヲ要ス同種類ノ仲裁裁判条約ハ白耳義独逸間ニ於テモ仏独間ニ於ケルト同様必要ナルヘシ

右二条約ノ実効ヲ挙ケルカ為メニハ「ラインランド」盟約記掲ニ係ル領土的保障ニ参与スル強国ノ共同並個別的保障ヲ以テ之カ遵奉ヲ確保セシメ当事国ノ一方カ紛争ヲ仲裁裁判ニ付スルヲ拒ミ若ハ仲裁判決ヲ実行スルヲ肯ンセスシテ対敵行動ニ出ツル場合直チニ右保障ノ発動ニ資セシムルヲ要ス

締結国ノ一方カ其ノ義務ヲ遵守セサルモ敢テ対敵行動ニ出テサル場合ニ於テハ連盟理事会ハ右条約ノ実効ヲ期スル為メ如何ナル手段ヲ執ルヘキカヲ提議スヘシ

五、独逸政府ハ其ノ覚書ニ於テ総テノ希望国トモ右ト同様ノ仲裁裁判条約ヲ締結スルノ用意アル旨ヲ付加セリ

連合国政府ハ右独逸ノ誓言ヲ欣然領承スルノミナラス「ラインランド」盟約ノ当事国タラスシテ「ヴェルサイユ」条約ノ署名国タル独逸ノ隣接国ト独逸トノ間ニ斯ノ如キ取極ノ存在セサル時ハ「ラインランド」盟約カ一要素トナリテ確立セラレントスル欧州平和ノ完全ナル保障ハ之ヲ所期スルニ由ナカルヘシト思考ス

加之連合国ハ連盟規約及平和諸条約ノ下ニ於テ到底拋棄シ得サル権利及回避シ得サル義務ヲ有ス

（従ツテ）右ノ如キ意義ヲ有スル仲裁裁判条約ハ第四節ニ於テ開示セル所ト同一ノ範囲ヲ有スヘク又「ヴェルサイユ」条約並「ラインランド」盟約ノ署名国ハ何レモ其ノ欲スル場合斯ノ如キ仲裁裁判条約ノ保障国トナルノ選択権ヲ有スヘシ

六、「ノート」ニ開示セラレタル諸条約中ノ如何ナル事項ト雖連盟規約ニ依リテ連盟国ニ帰属セシメラレタル権利及義務ニ影響ヲ及ホスコトアルヘカラス

七、本「ノート」中ニ開示セラレタル総テノ取極カ同時ニ効力ヲ発生スルニ非レハ平和維持ニ必要ナル一般的安全保障ノ確保ハ完成セラレ得ヘキモノニアラス

之等取極ハ連盟規約ニ従ヒ連盟ニ依リテ登録セラレ其ノ保護ノ下ニ置カルヘシ

米国側ニ於テ若シ以上ノ趣旨ヲ以テ実現セラルル諸取極ニ参与スル事可能ナリト思惟スルニ於テハ仏国ハ欣然一般的平和及安全ノ為メノ本企画ニ対スル偉大ナル米国民ノ参加ヲ迎フヘキコト言ヲ俟タス

以上ハ独逸政府ノ意見ヲ明確ニ承知シ置クコト必要ト思考スル主要点ナリ

仏国政府ハ本件ニ関シ有効且新タナル保障ヲ其有スル取極ヲ結フ目的ヲ以テ交渉ヲ開始シ得ルカ如キ回答ヲ受領センコトヲ希望ス

（欄外註記）

単ニ連合国ト協議ノ上何分ノ回答ヲナスヘキ旨述ヘタルモノ

二九　六月十八日　在伊国落合大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

保障条約ニ関スル対独回答ニ対スル伊国政府ヨリ仏国ヘノ回答大要報告ノ件

第四二号　（六月十九日接受）

保障条約ニ関スル対独回答ニ付キ仏国ヨリ賛成ヲ求メラレタルニ対シ十七日伊国政府ハ大要左ノ如ク回答セリト

伊国ハ独逸提議直後為セル宣言ヲ Confirm シ五国条約ノ成立ヲ可トシ以テ欧州平和確立ヲ希望ス然シナカラ目下斯ノ如キ条約ハ前記目的ヲ実現シ得ルヤ事態判明セサルヲ以テ伊国ノ約束スヘキ事及伊国ニ与ヘラル可キ一切ノ事理判然スル迄其ノ賛否ヲ留保ス

三〇　六月十九日　在独国本多大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

独国政府発表ノコミュニケニ関スル同国各新聞ノ論評報告ノ件

第一〇六号　（六月二十日接受）

独逸政府ハ十九日保障問題ニ関スル仏国政府ノ回答ヲ公表シ右回答中ニハ疑義ノ点尠カラス政府ハ詳細ノ研究ヲ為シ其態度ヲ決定スヘシトノ意味ノ「コミュニケ」ヲ発表セリ

独逸各新聞ハ右ニ関シ論評ヲ加ヘ居ル処大体右党側 Kreuz Allgemeine ハ Köln ノ撤兵軍事監督委員ノ報告等ノ問題解決ヲ見タル後ニアラサレハ連盟ニ加入シ得ス随テ保障問題モ直ニ交渉シ得スト為シ左党側 Voss Vorwaerts ハ仏国ノ回答温和ニシテ受諾ニ困難ナル点ナク且独逸ハ連盟ニ加入スルコトニ依リ Köln ノ撤兵ヲ確保スルヲ要スト為シ共産党側 Rotefahne ハ例ノ通リ仏国回答ハ永久ニ独逸ヲ「ヴエルサイユ」条約ニ依リ拘束スルモノナルト同時ニ西欧帝国主義諸国カ独逸ヲモ加ヘ労農政府攻撃ノ準備ナリト論セリ又外相機関紙 Zeit ハ仏国回答カ独逸連盟加入ヲ前提ト為シ居ルハ独逸提案ニナカリシモノニシテ而モ仏国案ニ依レハ保障条約成立後ト雖武力ヲ用イル場合三アリ右ハ前提条件タル連盟規約ト矛盾スト評セリ

在欧各大使ニ郵報

三一　七月二十二日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

仏国政府ヨリ安全問題ニ関スル独国ノ覚書ヲ日本政府ニ移牒方依頼越シノ件

別電　七月二十二日在仏国石井大使発幣原外務大臣宛電報第二七七号

安全問題ニ関スル独国ノ回答要領

第二七八号（極秘）　（七月二十三日接受）

仏国政府ハ別電安全問題ニ関スル独逸覚書写ヲ其ノ公表ノ前日本使ニ送付シ帝国政府ニ移牒方依頼スルト同時ニ右ニ対スル回答ハ帝国政府ト予メ協議シタル後ニアラサレハ之ヲ発セサル可キ旨申越タリ

英、伊、独、白ヘ転電セリ

（別電）

七月二十二日在仏国石井大使発幣原外務大臣宛電報第二七七号

安全問題ニ関スル独国ノ回答要領

第二七七号　別電

Sécurité 問題ニ関スル独回答二十二日公表要領左ノ通

独政府ハ六月十九日付仏覚書中ニ定規セラレタル新事項ニ就キ主義上ノ意見ヲ述フ

第一ニ独提議ハ平和条約ニ変更ヲ要セサルヲ明示セルニ連合国カ尚ホ此点ニ執着スルハ解シ難シ独政府ハ友交的合意ニ依リ既存条約ヲ事態ノ変遷ニ適応セシメ得ヘキヲ信シ保障条約締結ノ結果ハ被占領地及軍事占領ニ関スル諸問題ニ大影響ヲ及ホスヘキ新事態ヲ生スヘキヲ予測スルモ連合側是等諸規定ヲ将来絶対不可侵トナス意思アルヤ

第二ニ連合側ハ独逸ト諸隣邦トノ仲裁裁判条約ヲ重要視シ且ツ仲裁其他ノ客観的国際的手段ニ依ラス一国カ他ノ一国ニ対シ強制手段ヲ執リ得ヘキ例外的場合ヲ認ムル新制度ヲ定メント期待シ、例ヘハ賠償不履行ヲ許スヘキヤ否ヤ又ハ独逸カ新地方境界規定ニ違反セリト認メ軍事的干渉ヲナスヘキヤ否ヤ等ハ連合側ノ独断ニ委セシメント欲スルカ如キハ如何、尚又仲裁々判保証金（国カ）ノ関与ハ特定条件ニ従フトナスモ実際当事国間紛争ニ際シ保証国ハ其一方ト特別同盟関係アル場合ニハ独断的且ツ一方的ニ両国ノ何レカ侵害国ナルヤヲ決ス可キモノナレハ斯ル制度カ独逸ニノミ不利ナルハ明瞭ニテ平和確保ノ目的ニ反シ却テ重大紛議ノ因ト成ル可シ

第三ニ独逸ノ連盟勧誘ハ安全保証実現ノ必須条件ニ非スト認メルモ保証問題撤回ヲ重要視スルニ付此点ハ強テ争ハス但シ勧誘問題自体ニ就テハ尚慎重了解ヲ遂クルノ要アリ本年三月ノ理事会覚書ハ未タ独逸ニ満足ヲ与ヘス従来屢々大戦争ノ舞台トナリタル独逸ハ現ニ軍備ヲ全廃セルニ諸隣邦ハ皆強大ノ軍備ヲ保有シ何時其ノ軍事的紛争ニ捲込マルルヤモ知レサレハ諸隣邦ノ一般的軍備撤廃実現マテハ過渡的解決ノ要アリ独政府ハ以上ノ憂慮ニ係ラス相互ノ見解ノ接近セルヲ疑ハス関係各国ニシテ根本目的ヲ忘レス権利ノ平

等ト相互主義ノ必要トヲ意識セハ細目ノ協議ハ可能ナルヲ信ス

在欧各大使ニ郵送セリ

三二　八月十四日（着）　在英国吉田臨時代理大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

安全保障問題ノ進行状況等ニツキ仏国大使通報ノ件

第三七六号（極秘）

安全保障問題ニ関シ十三日仏国大使「ブリアン」ノ命ナリトテ左ノ通リ本官ニ伝ヘタリ

㈠英仏外相胸襟ヲ開キ協議ノ結果殆ト（独逸東方境界問題ヲモ含ム）決定セリ本日両国内閣夫々之ヲ討議スヘク通過ニ疑ナキカ其通過ヲ俟テ関係政府ニ通告アル筈ナリ

㈡独逸ハ連盟加入ニ就キ規約第十六条ニ関連シテ条件ヲ付シタルカ我々ノ考ニテハ他国ト同様無条件ニテ加入シタル後之ヲ討議スレハ宜シカルヘシ尤モ本問題ニ就テハ連盟自身諸政府ト交渉中ナレハ仏政府ヨリ通告スル筋合ニアラス

㈢今後ノ独逸トノ交渉ハ文書ヲ止メ直接交渉ノ心算

㈣対独回答ニ関スル英仏協定字句ニハ白伊モ勿論異議ナカルヘク之ヲ独逸ニ提議セハ直ニ調印スルナラムモ之ヲ dictate スル形ヲ避ケ先ツ独逸ト交渉ヲ始ムル心算ニシテ結果或ハ尚好キ字句トナルヤモ知レス

仏ヘ転電シ米、独、伊、白ヘ暗送セリ

三三　八月十八日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

仏国政府ヨリ受領シタル独国ノ覚書ニ対スル回答案ニツキ請訓ノ件

別　電　八月十九日在仏国石井大使発幣原外務大臣宛電報第三〇一号安全問題ニ関スル独国覚書ニ対スル仏国ノ回答案要領

第三〇〇号（極秘）　（八月十九日接受）

十八日求メニ依リ外務省ニ到リタルニ大臣次官留守中政務局長大臣ノ命ニ依リ別電対独回答案ヲ本使ニ手交シ右ハ白、伊、智、波ノ四国政府ヘ通牒セルカ今週末カ来週初ニ独逸政府ニ送リ度シト付言セリ就テハ折返シ御訓電アリ度シ尚本件関係上独逸ハ九月総会ニ連盟加入ヲ申込ヘキヤトノ質問ニ対シ局長ハ独逸ノ現状是ヲ許ササル可シ其場合ニモ

吾人ハ保障問題ノ議ヲ進メ其成立ヲ見ルモ効果発生ハ独逸ノ連盟加入ト同時タラシムレハ可ナリト云ヘリ先日「エストニア」外務大臣ハ英外相ニ面会セル節「チェンバレン」モ独逸ノ加入申込ハ来ル九月ニハ無カル可シト述ヘタル旨本使ニ内話セル事アリ英仏トモ同様ノ観察ナルカ如シ

英、独、伊、白、智、波ニ暗送セリ

（別　電）

八月十九日在仏国石井大使発幣原外務大臣宛電報第三〇一号安全問題ニ関スル独国覚書ニ対スル仏国ノ回答案要領

第三〇一号（極秘）　（八月二十日接受）

往電第三〇〇号ニ関シ

仏国ノ回答案要領左ノ通

交渉促進ノ為仏国政府ハ独逸覚書ノ三要点ニ付テノミ其ノ意見ヲ開陳スヘシ

一、独逸ハ平和条約ノ修正ヲ以テ安全保障条約ノ締結ヲ条件トセサルモ連盟規約ノ条項ヲ引用シ協定ニ依リ現行条約ヲ新事態ニ適応セシムルコト及「ライン」地方占領ノ態様変更ニ言及セル処該規約ハ条約ノ尊重ヲ基礎トシ国際義務遵守ノ誠意ヲ連盟加入ノ条件ト為シ居ルニ付仏国及其同盟国ノ見ル処ヲ以テスレハ何人モ平和条約及之ヨリ生スル列国ノ権利ヲ侵害スルヲ得ス即チ条約ハ勿論之カ実行ノ保障及該保障適用ニ関スル規定ハ前記協定ニ依リ之ヲ変更スルヲ得ス又仏国ハ平和ノ精神ヲ以テ現交渉ニ臨ムモノナルモ「ライン」左岸ノ占領ニ関スル其特権ヲ抛棄スルヲ得ス

二、独逸ニシテ連盟ニ加入セハ其希望ヲ達スル為有効ナル方法ヲ有スルニ至ルヘシト思惟ス而シテ独逸加入ハ相互保障及欧州協調ノ唯一ノ強固ナル基礎ヲ成スモノナルニ顧ミ独逸カ連盟加入ニ関シ留保ヲ為セルハ吾人ノ遺憾トスル処ナリ仏国政府ハ独逸ノ連盟加入ヲ論議スルノ地位ニアラス右独逸ノ留保ニ付テハ連盟理事会ハ各国平等ノ原則ニ基キ一国ニ対シテ除外例若ハ特権ヲ認メサル旨独逸政府ニ通告セリ而シテ同盟国政府ノ意見ニ依レハ普通条件ニ依ル独逸ノ連盟加入ハ安全保障協約ノ基礎ヲ成スモノニシテ連盟規約ノ予見スル一般的軍備撤廃ノ障害タルモノハ実ニコノ安全保障ノ欠如ナリト思考ス

三、一方独逸ト他方仏白両国若クハ他ノ独逸連邦トノ間ニ締結セラルヘキ仲裁条約ニ関シ独逸政府ハ該条約ノ適用範囲ニ制限ヲ設ケ最戦争ニ導ク危険アル政治的紛争ヲ義務的

仲裁ヨリ除外セントスル処右ニ独逸ノ最初ノ提案ト異ルノミナラス右ハ平和ノ保障トシテ余リ有効ナルモノニ非ス総テノ紛争ノ平和的解決ヲ義務的タラシムルコトニ依リ武力解決ヲ可能ナラシムコトハ安全保障協約ノ必要条件ナリ又仲裁条約ノ保障問題ニ関シ独逸ハ危険ノ念ヲ抱クカ如キモ吾人ノ執ラントスル形式ニ依レハ保障者ハ何人カ侵略者ナルヤヲ独裁的一方的ニ決スル次第ニ非ス侵略者ハ平和的解決ニ依ラスシテ武器ヲ取リ又国境若クハ中立地域ヲ侵スコトニ依リ自ラ侵略者トナルナリ侵略ノ危険アルカ如キ保障者カ活動ヲ開始スルハ論ヲ俟タス仲裁条約保障ノ制度ハ最近ノ連盟総会ニ於テ規約ノ精神ニ一致スト声明セラレタル思想ニ直接其源ヲ発スルモノニシテ保障ノ活動ヲ侵略ノ性質状況緊急ノ程度等ニ適応セシムル様規定ヲ設クルコト不能ニ非サルヘシ仏国政府ハ前述ノ大綱ヲ基礎トシテ独逸政府ト商議ヲ開キ本件協約ノ締結ヲ見ンコトヲ期待ス

在欧各大使、波蘭、「チェック」ニ暗送セリ

三四　八月二十一日　幣原外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

仏国政府ヨリ受領ノ独国ノ覚書ニ対スル回答

退区域ヨリノ撤兵ヲ希望セサルヲ得ストノ意味ノ声明ヲ発表セリ

三、当地新聞紙ハ仏国回答ノ交付遅キヲ攻撃シイタル程ナルカ回答ニ対スル論調ハ左ノ通ナリ即チ右党側ハ内容ニ於テ何等進歩ナキヲ引掛ニ本問題ヲ非難シ左党側ハ商議開始ノ提議ニ好意ヲ有シ社会党機関紙ハ独仏親善ノ為メ連盟加入ヲ慫慂シ共産党機関紙ハ独逸カ労農ヨリ離レ西欧諸国ニ降服スルコトヲ攻撃シ居レリ

三六　十月三日　在独国伊藤臨時代理大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

独ソ両国外相ノ会見及ビチチェリン外務委員ノ談話報告ノ件

第一六八号（極秘）　（十月四日接受）

㈠「チチェリン」三十日夜来伯一日ヨリ独逸外相ト会見ス各方面ノ情報ヲ綜合スルニ「チチェリン」ハ同会見ニ於テ独逸カ国際連盟ニ加入シ保障条約ヲ締結セムトスルハ英国ノ反露政策ノ手先ニ使カハルルモノニシテ「ラパロ」条約ノ精神ニ反スト難シ露国ハ今後全ク孤立ノ地位ニ陥ルヘシト痛ク憂慮ノ意ヲ洩シタルニ対シ「ストレーゼマン」ハ独逸ノ保障条約締結及連盟加入ハ何等反露的意味ヲ有セス露国ノ利益ハ之カ為メ却テ保全セラルルモノナレハ独逸ハ飽迄此点ニ付行動ノ自由ヲ留保スト断言シ但シ連盟加入ニ方リテハ規約第十六条ニ関シ留保スヘキ旨ヲ約シ且独露親善関係ヲ一層深カラシメムカ為メ通商ニ関スル諸条約調印ニ決セリト云フ同時ニ「チチェリン」ト独逸実業団トノ間ニ目下壱億馬克ノ実物信用取付ニ関シ折衝中

㈡尚新聞記者ニ対スル「チチェリン」ノ会見談中露国ト極東諸国トノ関係ハ近来益々良好ニ赴ケルカ此傾向ニ対シ平ラカナラサル英国ハ露国ニ対シ益々冷却ナル態度ヲ持シ来レリ云々トアリ

㈢独逸宰相及外相二日夜「ロカルノ」ニ向ケ出発セリ

三七　十月十日　在仏国石井大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

ロカルノニ於テ審議中ノ安全保障条約案ノ大要報告ノ件

第三五三号（極秘）　（十月十一日接受）

「ロカルノ」ニテ審議中ナル安全保障条約案ト称スルモノ

案ニ異議ナキ旨回訓ノ件

第二二一号（極秘）

貴電第三〇〇号ニ関シ

帝国政府ニ於テハ貴電第三〇一号回答案ニ異議ナキニ付往電合第三六号ノ御含ミニテ処理セラレ度シ

三五　八月二十八日　在独国本多大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

保障問題ニ関スル仏国側回答及ビ法律専門家会合ニ対スル独国側ノ態度報告ノ件

第一五四号（秘）　（八月二十九日接受）

一、保障問題ニ関スル仏蘭西回答二十七日公表セラル右回答ト共ニ仏蘭西側ヨリ関係国外相会議開催前法律専門家ノ会合ヲ為サンコトヲ申出スル趣

二、独逸政府ハ右ニ対シ

㈠本問題ニ関シ口頭商議ニ入ラントスル提議ニ賛成ナルモ法律家ノ会合ハ単ニ意見ノ交換ニ過キサル如キモノタルヘク

㈡独逸ノ連盟加入ニ対シテハ独逸ノ立場ハ抛棄セストシ

㈢保障条約ノ精神ヨリ見テ独逸ハ「ライン」占領第一撤

牒報者ヨリ入手ス大要左ノ通

一、仏白独間ノ国境並ニ「レナン」地帯ノ不可侵

二、仏白独ハ互ニ侵略ヲ為サス武力ニ訴エサルコトヲ約スルモ其一方カ約ニ背キシトキ国際連盟ノ同意アルトキ又ハ「レナン」地方武備ニ関スル平和条約ノ規定ニ違反セルトキハ此限リニアラス

三、三国ハ一切ノ問題ヲ平和的ニ解決スヘク若シ権利ノ所在争ヒトナル場合ニハ其裁決ヲ裁判官ノ手ニ其他ノ場合ニハ和解委員会場合ニ依リテハ連盟ノ手ニ委ヌルコト

四、一国ハ本条約第二条又ハ「レナン」地帯武備ニ関スル平和条約ノ規定ニ他国カ違反セリト認メタル場合ニハ直ニ本件ヲ連盟ニ提起スヘク連盟カ右違反ヲ確認スルトキ及右違反カ些ノ疑ヒナキ場合ニハ締約国ハ直ニ被害国ヲ援助スルコト

五、三ニ関シ一（？）ノ規定ニハ違反セサルモ締約国ノ一国カ平和解決ノ規定ノ遵守又ハ仲裁決議ノ履行ヲ拒ム場合ニハ他ノ締約国ハ本件ヲ連盟ニ訴フ

六、本条約ハ平和条約並独逸波蘭間、独逸「チェコスロバキア」間ニ締結セラルル仲裁条約ニ違反シ一国カ兵力ヲ用フル場合之ニ対シ執ルヘキ手段ヲ妨クルモノニ非ス

七、本条約ハ締約国カ連盟加入国トシテ有スル権利義務ヲ妨ケス又連盟ノ行動ヲ制限スルモノト解ス可カラス

八、本条約ハ理事会カ連盟ノ与フル保障ヲ充分ト認ムル迄存続ス

九、十略ス

十一、本条約ノ効力ハ独逸ニ付テハ連盟加入ヲ待テ発生ス

在欧各大使、瑞西、波蘭、「チェ」ヘ暗送セリ

三八　十月十七日　在スイス国有吉公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

安全保障条約及ビ仲裁条約仮調印ノ件

第四二号（極秘）　（十月十八日接受）

往電第三九号ニ関シ

「ロカルノ」会議ハ其ノ後順調ニ経過シ各国全権間ニ意見ノ一致ヲ見、十六日夜下記諸条約ノ仮調印ヲ了シ本調印ハ十二月一日倫敦ニテ行ハル可ク条約文ハ二十日午前倫敦巴里等ニテ発表セラル可キ趣ナリ

英仏伊白独間ノ安全保障条約、独逸ト仏白波「チェコ」間ノ四仲裁条約、尚「ブリアン」ハ同会議間ニ於テ仏国ハ独逸ト波蘭「チェコ」間ノ前記仲裁条約ヲ保障スル為波蘭及「チェコ」ノ間ニ条約ヲ締結シタル旨報告セリ

在欧米各大使波蘭「チェコ」ニ転電セリ

三九　十月十九日　幣原外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

ロカルノ会議ニ関スル新聞論調ノ件

第二七一号

ロカルノ会議ニ関スル主タル新聞論調

十六日大阪毎日、今日マテ保障問題ノ解決遅延セル唯一ノ原因ハ仏蘭西ノ安全ノミヲ保障セントシテ独逸ノ立場ヲ顧ミサリシ為ナリ欧州政局ノ安全ヲ図ルニハ独逸ヲ連合国ト同等ノ地位ニ置キ連盟ニ加入セシメ総テノ交渉会議ニ参加セシメサルヘカラス今回独逸カ名実トモニ此地位ヲ得タルハ欧州平和ノ為メ祝スヘシ

十七日東京朝日、新条約ハ欧州ノ安定ト繁栄ニ数歩ヲ進メタルニ相違ナキモ独逸ノ希望カ容レラレシ程度ニ応シテ条約ノ価値ニ差異ヲ生スル又露国カ会議ヨリ除外サレ居ル点ニ於テゼノア会議当時ロイド・ヂョーヂカ高調セル新欧州連邦ノ理想ニ甚タ遠シ

同日国民、今日世界平和ノ攪乱ノ恐アル処ハ欧州以外ニ無シト云ヒ得ル従テ欧州ノ平和保障ハ世界平和ノ保障ナリ

在欧各大公使及在米大使ヘ転電アリタシ

四〇　十月二十日　在伊国落合大使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

ロカルノ会議ヲメグル各国ノ態度ニツキ報告ノ件

第六七号（極秘）　（十月二十一日接受）

十九日英国大使来訪「ロカルノ」会議ニ言及シ英仏外交ノ成功ヲ祝シ特ニ「ブリアン」ヲ称讃シテ其弾力アル性格カ該会議ノ纏ルコトニ甚タ有効ナリシコトヲ述ヘ独逸ハ最後ノ瞬間ニモ有利ナル或物ヲ得ムト努力シタルモ効ナカリシ而モ結局協定ヲ承諾スルニ至リタル有力ナル原因ハ同国ノ財政関係上米国ノ援助ヲ欲スルコト切ナルモ米国側ヨリハ独逸カ先以テ同盟側ト協定ヲ遂クルニ非サレハ何等相談ニ応スル能ハストノ旨ヲ通告シタルコトナリ

「チチェリン」ノ独逸牽制策モ何等効ナカリキ尚伊国カ極最近迄留保的態度ヲトリ会議成功スルト見ルヤ忽チ之ニ加入シ「ムソリニー」ノ出張トナリタルハ其立場上当然ノコ

トニシテヨク了解シ得ラルト内話セリ

英仏独白ニ暗送セリ

四一　十月二十七日　在スイス国有吉公使ヨリ幣原外務大臣宛

ロカルノ会議ノ経過及ビ諸条約ノ政治的意義ニ関シ報告ノ件

機密第二六号　（十二月八日接受）

大正十四年十月二十七日

在瑞西

特命全権公使　有吉　明（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

ロカルノ会議ノ経過及諸条約ノ政治的意義ニ関スル件

本件ニ関シ㈠ロカルノ会議ノ経過及㈡諸条約ノ政治的意義ニ関スル別紙報告茲ニ及進達タルニ付御査閲相成度此段申進ス

一、ロカルノ会議ノ経過

本月五日ヨリ当瑞西国テチノ州ロカルノ町ニ於テ開催セラレタル安全保障ニ関スル会議ハ当初ノ一般予想ニ反シ

極メテ順調ニ経過シ十六日ニハ各国全権ノ仮調印ヲ了スル迄ニ至リタル次第ニ付テハ不取敢往電第三九号及第四〇号ヲ以テ報告致シ置キタル処本会議ハ公開セラレス各会議毎ニ発表セラルル「コムニケ」モ極メテ簡単ナルモノナリシカ英、仏、白、伊、独間ノ安全保障条約案ニ付テハ二三ノ条項ニ関シ数次審議ヲ重ネタル外其大部分ニ付テハ法律専門家会議ノ草案ヲ其儘採用シ又独逸ト仏、白、波、智間ニ締結セラレタル四仲裁条約モ其審議意外ニ進捗シ十五日ノ第十一回会議ニハ初メテ波蘭外相「スクリチンスキー」氏及智恵古外相「ベネシュ」氏ヲ参加セシメテ一気呵成ニ議ヲ進メ翌十六日夕刻ニハ此等諸条約ノ仮調印ヲ了スルニ至レリ此間一方「ブリアン」氏ハロカルノ町ヲ去ルコト遠カラサル「ルガノ」町ニ前記「スクリチンスキー」氏及「ベネシュ」氏ト会シテ独波間及独智間ノ仲裁条約保障ヲ目的トスル二条約ヲ結ヒ其旨十六日ノ最終会議ニ報告シタリ

当国言論界ハ挙ツテ欧州平和史上ニ一紀元ヲ画スヘキ右会議カ自国領土内ニ於テ開催セラレタルヲ光栄トシ只管会議ノ成功ヲ希望シ居リタル処十六日ニ至リ各国全権間ニ意見ノ一致ヲ見仮調印ヲ了スルヤ各新聞一斉ニ其一大成功ヲ祝シ一九一九年ノ巴里平和会議以来休戦状態ニ在リトモ謂ヒツヘキ欧州ノ局面ニ真ノ平和ヲ持チ来シタルハ実ニ「ロカルノ」会議ト謂フヘク平和会議以来絶エス不安ノ状態ニアリタル所謂東方国境並ニ「レナン」地帯ニ関シ後日ノ禍根ヲ一掃シ得タルコトハ独リ欧州ノ平和ノタメノミナラス実ニ世界ノ平和ノタメニ祝賀スヘキナリト云ヒ又独逸カ本会議ニ於テ極メテ協調的態度ヲ示シタルハ目下ノ独逸ノ情勢ニ鑑ミテ誠ニ賢明ナル態度ト謂フヘク此際英仏カ占領地帯ヨリ撤兵スヘキハ理ノ当然ナレハ近ク之カ実現ヲ見ルヘク斯クテ欧州ノ不安ハ一先ス一掃セラルル次第ニテ只茲ニ残レル将来ノ世界的一大不安ハ露西亜問題ニシテ欧羅巴文明ノ消長ハ実ニ本問題ノ解決如何ニ懸レリト論シタリ（往信公第九六号参照）

二、ロカルノ会議諸条約ノ政治的意義

本会議ニテ仮調印セラレタル諸条約ノ意義ヲ略述スレハ先ツ仏白独間ノ国境ニ付テハ独逸ハヴェルサイユ条約ニ定ムル所ヲ確定的ニ承認シ当事国ハ互ニ之レヲ保障シタル結果独逸ハ今後曾テ仏白ヨリ受ケタル「サンクション」ヲ再ヒ受クルノ危険ヲ免レ且同国ハ英伊両国ノ保障参加ニヨリ右国境問題ニ関シテハ完ク仏白ト同等ノ地歩ニ立ツニ至リ若シ将来之レカ侵迫ノ事実アル場合ニハ（特ニ右ハ独波両国間ノ関係ニ付キ起リ得ヘシト云フ）之ト対等ノ権利者トシテ国際司法裁判所、国際調停委員会若クハ国際連盟理事会等ニ対シ保証ヲ要求スルノ権利ヲ収メ又同国ハ英、仏、白、伊諸国カヴェルサイユ条約及一九二四年八月ノ倫敦協定等ニヨリ現ニ有スル各個ノ権利ヲ確認スルト共ニ今後ヴェルサイユ条約ノ規定ノ適用及解釈等ヨリ生スヘキ諸種ノ問題ヲ客観的且中立的ノ仲裁諸制度ノ付託目的物タラシムルコトヲ得ルニ至レリ波蘭、知恵古ト独逸トノ国境問題ニ付テハ英国ハ当初ノ主張通リ国際連盟規約ノ範囲内ニ於テノミ波蘭、知恵古両国ノ領土及独立ヲ保障スルコトトナリ独逸モ右規約ノ範囲内ニ於テハ又右二国ト同等ノ程度ニ於テ英国ノ援助ヲ受クル次第ニテ仏国モ大勢上又右英国ノ与フル保証ノ程度ヲ超ヘテ特ニ是等二国ヲ援助スルコトヲ為ササルコトニ決シタルヲ以テ今回仏国ハ此趣旨ニ基キ是等二国トノ在来ノ同盟条約ニ多少ノ改訂ヲ加ヘ特ニ波蘭、知恵古ノ現在

ノ国境ヲ保障スルカ如キ文字ヲ挿入スルコトヲ避クルコトトシ且其条約ノ正文ハ之レヲ国際連盟事務局ニ登録スルコトトナレリ独逸側ハ当初ヨリ仏白トノ国境ニ対シテハ現状ノ尊重ヲ約シ之レニ関スル政治条約ノ締結ニ応スルモ其ノ東方国境特ニ波蘭ノ所謂「コリドール」及上「シレジイ」一部ノ現在国境ニ対シテハ之レカ改正ヲ欲シ居ル関係上同国ハ波蘭、知恵古二国トハ国境ニ関スル政治条約ノ締結ヲ肯セス単ニ之ト仲裁条約ヲ結ハンコトヲ主張シタルモノニシテ独逸側ノ意向ニテハ今回ノ諸条約ハ独波国境修正問題提起ノ途ヲ塞シ居ラス明カニ東西両国境ニ対スル政策ノ差異ヲ表示スルモノナリト云フ「ルーター」「ストレゼマン」等ハ将来国際連盟規約第十九条（適用不能条約ノ再審議ノ件）ニ依リ専ラ平和的方法ヲ以テ其ノ国境修正ノ目的ヲ達セントスル希望ヲ有スト云フ尚仲裁事項ヲ法律事項ト利益事項トニ分チ各別ニ客観的中立的ノ機関ヲ設定シ各々ニ付キ強制的仲裁ヲ受諾シタルハ最近ノ国際仲裁制度ノ実際ト理論トニ則リタルモノニシテ欧州大国間ニ於ケル仲裁思想ニ一大進歩ヲ画スルモノナリ

国際連盟規約第十六条ノ解釈ハ法律専門家ノ最モ苦心シタル所ニシテ之レニ依リ独逸カ国際連盟ニ加入スル場合ニ於テモ同国ヲシテ将来右条規ニ依リ自己ノ意思ニ反シテ第三国ニ対スル軍事経済的制裁ニ参加スルコトヲ余儀ナクセシメ若クハ自国領土内ヲ他国軍隊カ通過スルコトヲ承諾セサルヘカラサルノ義務ヲ事実上免レシメタルモノニテ之ニヨリ独逸カ国際連盟加入ニ対シ有スヘキ一大障害ヲ除去シ得タリ独逸ノ加入ト共ニ国際連盟ノ権威ハ一層高マルニ至ルヘシ

右ノ外ロカルノ会議中独逸側ヨリ仏国等ニ対シ提起シタル所謂第二段ノ問題（コロン撤兵其他ノ問題）ノ解決ニ付テハ一方仏国代表ハ此等問題ニ対シ独逸側ニ口約ヲ与ヘ保障条約承諾ニ対スル一種ノ代償ヲ与フカ如キ感ヲ内外ニ抱カシムルコトハ国内輿論及政情ニ顧ミ到底同意シ得サル所ナリト主張シ独逸側ハ是等ノ問題ヲ以テ対内関係上右諸条約ノ運命ヲ支配スヘキ重大案件ナリト為シ仏国全権カ公文ヲ以テ之レカ解決ヲ約センコトヲ固執シ本会議モ之レカ為メ条約調印前ニ至リ一時停頓ヲ見ルニ至リタルモ「チェンバーレーン」氏ノ熱心ナル斡旋ノ結果遂ニ「ブリアン」氏ハ個人的責任ヲ以テ或程度迄此等第二段ノ問題ノ解決ニ尽力スヘキ旨口頭ヲ以テ最終本会議ニ言明スルコトヲ承諾シ独逸全権モ条約ノ本調印期（十二月一日）迄ニ右口約ノ事実トナリテ現ハルルコトヲ期待シ右言明ヲ以テ満足スルコトトナレリ右「ブリアン」氏ノ宣言ノ内容ハ公表セラレサルモ各種ノ報道ヲ総合スルニ大体ニ於テコロン撤兵、ライン左岸占領軍ノ減少及同地方司法行政制度ノ改善、「ライン」河航行問題、商業航空事業ノ制限撤去、「ザール」地域行政制度ノ改正、植民地委任統治権問題等カ仏独全権間ノ交渉問題トナリタルモノノ如ク右ノ内コロン撤兵問題、「ライン」左岸問題、航空問題等ニ付テハ前記ノ通リ大体ノ口約ヲ「ブリアン」氏ヨリ与ヘラルルニ至リタルモノト察セラル

本信写送付先　在英及在仏大使

四二　十月二十八日　在ソ連邦田中大使ヨリ幣原外務大臣宛

保障条約ニ関スルソ連紙論調報告ノ件

公第一五〇号　（十一月二十五日接受）

大正十四年十月二十八日

在ソヴィエト連邦
特命全権大使　田中　都吉（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

保障条約ニ関スル新聞論調報告ノ件

本件ニ関シ別紙ノ通リ報告申進ス

本信写送付先
在英、独、仏、白及伊大使並在「チェコ」及波蘭公使

労農政府ハ独逸カ保障条約及連盟加入ニ同意セントスル形勢トナルヤ之レ同国カ自己ニ反対ナル国際団体ニ鞍替ヲナスモノナリトナシ自己ノ国際的地位孤立ニ陥ルヲ虞レタリシコトハ当時ノ労農新聞ノ論調ニ見テ窺知シ得ル処ナルカ倫敦ニ於ケル法律委員会ノ結果愈々「ロカルノ」ニ於テ保障条約ニ関スル会議開催セラルルコトトナルヤ「チチェリン」ハ病気療養ノ為維納付近ノ「クロルト」ニ転地スルノ予定ヲ変更シ独逸名医ノ診断ヲ受クルヲ名トシ「ワルシャワ」経由伯林ニ乗込ミ独逸政府ニ対シ同国カ保障条約ヲ締結シ連盟ニ加入スルハ「ラパロ」条約ノ精神ニ反スト訴フルノ外新聞紙ヲ利用シテ「ロカルノ」会議反対ノ輿論ヲ喚

起セントシタルモ国家制度ヲ異ニスル蘇連邦（ソヴィエト）ト政治上ノ提携ヲナシ西欧諸国ニ対抗スルコトノ甚タ不利益ナルヲ知悉セル独逸ハ個々ノ問題ニ付意見ノ一致ヲ見スシテ調印ニ至ラサリシ蘇独経済条約ヲ急速締結スルコトトシ一応ノ機嫌ヲトリタルモ「ストレーゼマン」ハ座ヲ外シテ「ロカルノ」ニ赴キ遂ニ保障条約ニ仮調印ヲナシ連盟ニ加入スルコトトナシテ帰来セリ右ニ関スル当地主要新聞ノ論調大要左ノ如シ尚当地新聞ハ総テ政府又ハ政府党ノ機関紙ナリ

十月十六日「ラボーチヤヤ・ガセータ」（共産党中央委員会機関紙）

保障条約ノ目的ハ欧州列国ヲ英国ノ下ニ糾合シ時機ノ到来ヲ待ツテ蘇連邦ヲ攻メントスルニアリ而シテ蘇連邦ニ反対ナル国際団体ニ加入シタル独逸ハ果シテ「ラパロ」条約ヲ誠実ニ履行シ得ルヤ否ヤ吾人ハ保障条約ニ反対ナル独逸「プロレタリー」ノ蹶起スル時機ヲ静カニ待タンノミ

十月十八日「グトーク」（鉄道従業員組合中央委員会機関紙）

保障条約ハ「ドーズ」案ノ延長ニシテ同案カ独逸ヲ米国資本ノ羈絆ノ下ニ置キタルモノトセハ保障条約ハ独逸ヲ英国外交ノ羈絆ノ下ニ置キタルモノナリ尚同条約ハ独逸ヲ駆ツテ蘇連邦ニ反対ナル国際団体ニ加入セシメタルモノニシテ結局世界ノ「プロレタリアト」ニ対スル陰謀ナリ

十月十八日「プラウダ」

「ロカルノ」条約ハ独逸カ蘇連邦ニ敵意ヲ有スル英国ニ服従スルコトヲ意味ス故ニ「ロカルノ」条約ト「ラパロ」条約トハ両立セス「ロカルノ」会議ハ英国外交ノ勝利ナリ

十月十八日及二十一日「イズヴィエスチヤ」紙

英国ハ保障条約ニヨリテ独逸トソ連邦トノ関係ヲ疎隔セシメ又仏国ト「チェク」及波蘭トノ関係ヲ薄弱ナラシメ欧州ニ於テ覇者タルノ地位ヲ占メタルモノナリ

十月二十日「エコノミーチェスカヤ・ジーズニ」（労働国防会議機関紙）

保障条約ハ独仏カ確執ノ結果共ニ疲弊シテ英国ニ対抗スルコト能ハサルニ至リタル結果ニシテ之カ為仏国ハ世界及欧州ノ政局ヲ左右スルノ地位ヲ喪失セリ英国ノ目的ハ先ツ西欧諸国ヲ自己ノ支配下ニ置キ次ニ蘇連邦ニ及ホサントスルモノナリ幸ヒ資本国ノ間ニハ利益ノ相背反スルモノアリ英国ノ野心ハ実現スルコトナカルヘシ此ノ時ニ当リ蘇連邦ノ努ムヘキハ国家経済ヲ回復シ国内ノ安定ヲ計リ世界ノ労働階級ノ同情ヲ得ルニ在リ

尚最近英国新聞紙中蘇連邦ヲモ連盟ニ加入セシムヘシトノ論ヲナスモノアルニ付十月二十五日ノ「イズヴィエスチヤ」ハ十月十五日伯林新聞ニ掲載セラレタル「チチェリン」ノ声明ニ見ルモ蘇連邦カ連盟ニ加入スルモノニアラサルコト明ナルニ不拘英国新聞カ之ヲ云々スルハ之レ英国外交ノ蘇連邦ニ対スル敵意ヲ秘スル為ナルト共ニ蘇連邦ノ連盟加入ヲ欲セサルハ平和ヲ欲セサルカ故ナリ平和ヲ欲セサル者ハ連盟規約第十六条ヲ適用スルモ差支ナシトノ空気ヲ醸成センカ為ナリトナシ英国新聞ノ誠意ヲ疑フノ態度ヲ示シ居ルニ反シ同日ノ「プラウダ」ハ真ン更連盟加入ニ色気ナキニアラサルカ如キ論説ヲ掲ケ居レリ其ノ大要左ノ通リ

「ヴェルサイユ」条約ノ範囲ヲ出テスト云ハルル「ロカルノ」条約締結国ト雖モ蘇連邦ト経済上政治上ノ協定ヲナス余地アルノミナラス一般民衆ハ戦争ヲ忌ムコト甚シキヲ以テ「ロカルノ」条約ヲ以テ蘇連邦ニ対スル武器トシ之ヲ経済的ニ封鎖シ又ハ外交上孤立ノ地位ニ立タシムルコト能ハス「ロカルノ」条約ハ平和ノ確保ナリト云フモ蘇連邦ニ反対ナルカ又ハ同国ヲ除外シタル平和ハ真ノ平和ニ非ス故ニ真ニ蘇連邦ノ連盟加入ヲ必要トセハ須ク蘇連邦ヲ継子扱トナスコトヲ止メ列国ト対等ノ待遇ヲ与ヘサルヘカラス云々

四三　十一月七日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛

連盟理事会ニ於ケルロカルノ会議ニ関スル我ガ方声明ノ件

付属書　十月三十日ノ理事会ニ於ケル石井大使声明

連本公第四二七号　（十二月十二日接受）

大正十四年十一月七日

在巴里

国際連盟理事会ニ於ケル帝国代表　特命全権大使子爵　石井　菊次郎（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

連盟理事会ニ於ケル「ロカルノ」会議ニ関スル我方声明ニ関スル件

去ル十月三十日午前連盟理事会公開会議（巴里外務省内ニ開催）ニ於テ「ロカルノ」会議ニ付本使ノ為シタル声明別紙ノ通リ送付ス

抑々過般ノ「ロカルノ」会議ハ事全ク欧州政治ニ関シ帝国

ノ参加スベキ場合ニモアラス又其ノ必要モ無カリシニ依リ代表者ヲモ傍観者ヲモ派遣セラレサリシ次第ト推察スル処帝国ノ不参加ニ対シ不審ノ念ヲ懷ク向モナキヲ保セス（現ニ二、三新聞記者ヨリ斯ル質問ヲ受ケタルコトアリ）他方同会議ノ成功ニ対シテハ会議ニ参加セサリシ国ノ中直接英仏等ノ政府ニ祝意ヲ表シタルモノサヘアリタリ我方トシテハ政府ヨリモ格別御訓令ナク旁々右ノ如キ措置ヲハ執ラサリシモ五大国ノ一タル帝国ノ地位ニモ鑑ミ何等カノ機会ニ於テ本会議ノ結果ニ対スル帝国政府ノ意向ヲ表明シ置クコト適当ト思料シ居タル処今般図ラスモ希臘、勃牙利事件突発ノ為緊急連盟理事会ヲ巴里ニ開催スルコトトナリ「ロカルノ」会議出席者タル「チェンバーレン」「ブリアン」及「シャローヤ」ノ三氏モ之ニ参会シタルノミナラス該理事会ハ極メテ迅速ニ開会ヲ見且其ノ斡旋ニ依リ両国トモ干戈ヲ納メ重大事ニ至ラスシテ巧妙ナル落着ヲ見以テ戦争防止ノ有益ナル一先例ヲ作レリト称セラルルニ至リタルニ依リ本使ハ此ノ好機会ヲ捕ヘ今期理事会最終会議タル前記会議ニ於テ本件声明ヲ為シ以テ帝国政府ノ「ロカルノ」会議ニ対スル興味ト其ノ結果ニ対スル満足トヲ表明セル次第ナリ

右ノ結果理事会議長タル「ブリアン」氏モ亦「ロカルノ」ニ於ケル事業ニ言及シテ今期理事会閉会ノ辞トナシタルカ「ブリアン」氏モ「チェンバーレン」氏モ右本使ノ声明ニ依リ今期理事会カ一層重キヲ加ヘタリト喜ヒ居タリ

右報告申進ス

（付属書）

十月三十日ノ理事会ニ於ケル石井大使声明

Discours du Vicomte Ishii

à la séance du Conseil du 30 octobre 1925.

Avant de nous séparer et profitant de cette première réunion du Conseil après la conclusion du Pacte de Sécurité et des Conventions d'arbitrage de Locarno, je voudrais présenter mes très sincères et très vives félicitations aux éminents représentants de la France, de la Grande-Bretagne et de l'Italie, ici présents tous les trois, pour l'oeuvre magnifique qu'ils ont accomplie à la Conférence de Locarno.

Le Traité de Versailles n'a pas pu donner au monde une véritable paix. Le cauchemar de la guerre a envahi toutes les chancelleries, et c'était dans le but d'obvier à cet état de choses que les hommes d'Etat de tous les pays ont travaillé au cours de ces six dernières années. Le pacte de non-agression, le traité d'assistance mutuelle, enfin le Protocole de Genève, avaient les uns et les autres un seul but, c'est-à-dire l'établissment de la paix mondiale.

Les éminents hommes d'Etat présents à Locarno ont réussi pour la première fois à atteindre ce but, en ce qui concerne l'Europe occidentale et orientale. Tout en restant spectateur à cause de sa situation géographique, le Japon s'est profondément intéressé à cette oeuvre de paix, à l'issue de la Conférence de Locarno et il a été particulièrement heureux de constater qu'elle a réalisé certaines des idées qu'il chérit lui-même.

En effet, au cours de la dernière Assemblée de la Société des Nations, la Délégation japonaise a eu l'occasion de faire (不明) qu'étant donné les situations nouvelles, il lui (不明) plus sage de ne pas insister pour l'adoption (明不) Protocole de Genève, de borner pour le moment la tâche de la Société des Nations à l'établissement des ententes régionales, à les étendre, autant que les circonstances le permettaient, à d'autres parties du monde, et enfin d'introduire et de perfectionner le système de conciliation internationale élaboré par la IIIème Assemblée de la Société des Nations. Or, une entente régionale de première importance a été établie par la Conférence de Locarno. Elle ne manquera pas, espérons-le, de servir de modèle précieux à d'autres ententes régionales de même genre dans d'autres parties du monde. De plus, un système de conciliation internationale a été introduit dans toutes les conventions d'arbitrage paraphées à Locarno.

C'est pourquoi j'estime opportun d'exprimer ici la gratitude et la satisfaction de mon Gouvernement pour l'oeuvre si féconde et si remarquable accomplie

à Locarno.

Ainsi, ce que l'on est convenu d'appeler l'atmosphère de Genève s'est heureusement cristallisée à Locarno en une formule tangible et concrète. L'esprit nouveau qu'elle comporte est désormais acquis à la Société des Nations et au monde entier.

Aujourd'hui, il y a lieu de nous féliciter d'avoir pu arriver à une solution pacifique du regrettable incident gréco-bulgare. Mais si nous avons pu ainsi réglé cet incident d'une manière rapide et satisfaisante, c'est, à mon avis, en grande partie grâce au Pacte de Locarno de l'esprit duquel tous les membres du Conseil sont profondément inspirés, et qui a ainsi singulièrement faciliter la tâche délicate et difficile du Conseil.

四四　十二月四日　在仏国石井大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ロカルノ条約ニ対スル仏独両国ノ態度報告ノ件

第四二三号（極秘）　（十二月五日接受）

「ロカルノ」条約成立シ㈠仏国政界ハ右党一部ヲ除キ他ハ同条約ヲ以テ平和政策ノ第一ノ実現トシテ衷心ヨリ賛意ヲ表シ独逸政治家カ同条約ヲ賛成シナカラ尚自家ニ有利ナル曲解ヲ公言スルニ対シテモ之ヲ内政上ノ理由ニ帰シ独逸人モ早晩同条約ノ精神ヲ遵奉スルニ至ル可シト楽観スルモノ多シ㈡英仏両国ノ現当局者ハ同条約ノ成立ノ為独逸ノ意ヲ迎フルノ意切ナルコト殆ント意外ナリ過般来大使会議ニ於テ対独撤兵、軍縮監督ノ両問題ニ於テ両国カ殆ント「フォッシュ」元帥ノ意見ヲ無視シテ迄モ寛大ノ意見ニ出テタルハ御承知ノ通ナリ殊ニ滑稽ナリシハ「ロカルノ」条約ノ事実成立セル今トナリテハ「アライド・ガバーメンツ」ナル文句ハ穏当ナラストノ英大使ノ主張アリテ仏国之ニ和シ為ニ先月右両問題ニ関スル対独公文ハ此文句ヲ去リ大使会議ニ代表セラルル国ノ政府ト云ヘル長タラシキ文句ヲ使用（世上ニ公表スル「コンミニケ」ニハ同盟政府ノ文句ヲ依然用イタルモ）セルニ其ノ後独逸外相ノ演説中却テ同盟側ナル文句ヲ再三使用シタルコトナリ㈢独逸ハ「カイゼル」ノ昔ヨリ黄禍論又ハ異人種ニ対スル白人ノ地位ヲ高調シ戦後ニ至リテモ占領軍中異色ノ兵ニ対シ苦情ヲ唱ヘタルハ勿論日本将校ノ独逸軍事監督ニ対シテ悪感ヲ表示シタル位ナリシカ「ロカルノ」ニ於テ独逸側ハ又モ此論法ニ出テ欧州ノ「ソリダリティ」ヲ高唱シタル由或モノハ今回ノ欧州ノ「ソリダリティ」論ハ寧ロ米国ニ対スル意味ヲ専ラニセリト解シ本使ノ友人ナル或米人ハ「ロカルノ」ニ於ケル「ストレーゼマン」ノ欧州「ソリダリティ」論ハ痛ク米国官民ノ感興ヲ起シ国務省辺ニテハ将来ノ重要問題トシテ既ニ之ヲ真面目ニ研究シ出シタリト云ヘリ一昨日ノ倫敦調印ノ席上「ブリアン」カ「ユーロープピアン・ファミリー」ナル文句ヲ執ヘテ「ストレーゼマン」ハ又モ長々ト欧州ノ連鎖ヲ説キ「ユーロープピアン・スピリット」ニ言及スルアリマサカニ「ユーロープピアン・インテレスト」迄ハ云ハサリシモ其ノ説ク所ハ真ニ此意味ヲ以テセルカ如シ此論ハ仏国カ「モロッコ」「シリア」ニ手ヲ焼キ英国カ印度土耳古ニ対スル現状ニ鑑ミ両国ノ歓迎スル処ナルヘキハ勿論ナルモ同時ニ独逸ハ異色人種ト連絡ヲ執ルニ腐心スル露「ソビエット」政府ト離ルルヲ肯ンセサル点ニ於テ両国殊ニ英国ニ対シ一種ノ挺ヲ手放ササルモノナル可シ

在欧各大使、芬蘭、智恵古各公使並ニ在米大使ニ暗送セリ